

第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）
策定に係る関係団体等アンケート調査

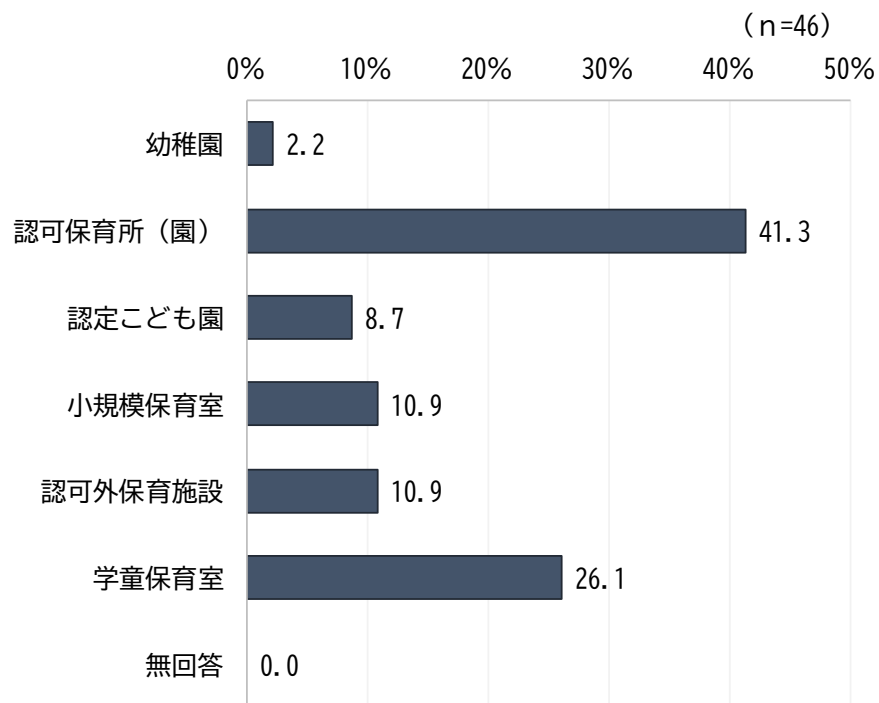
結果報告書

令和6年8月

1. 事業所調査

1. 貴事業所について

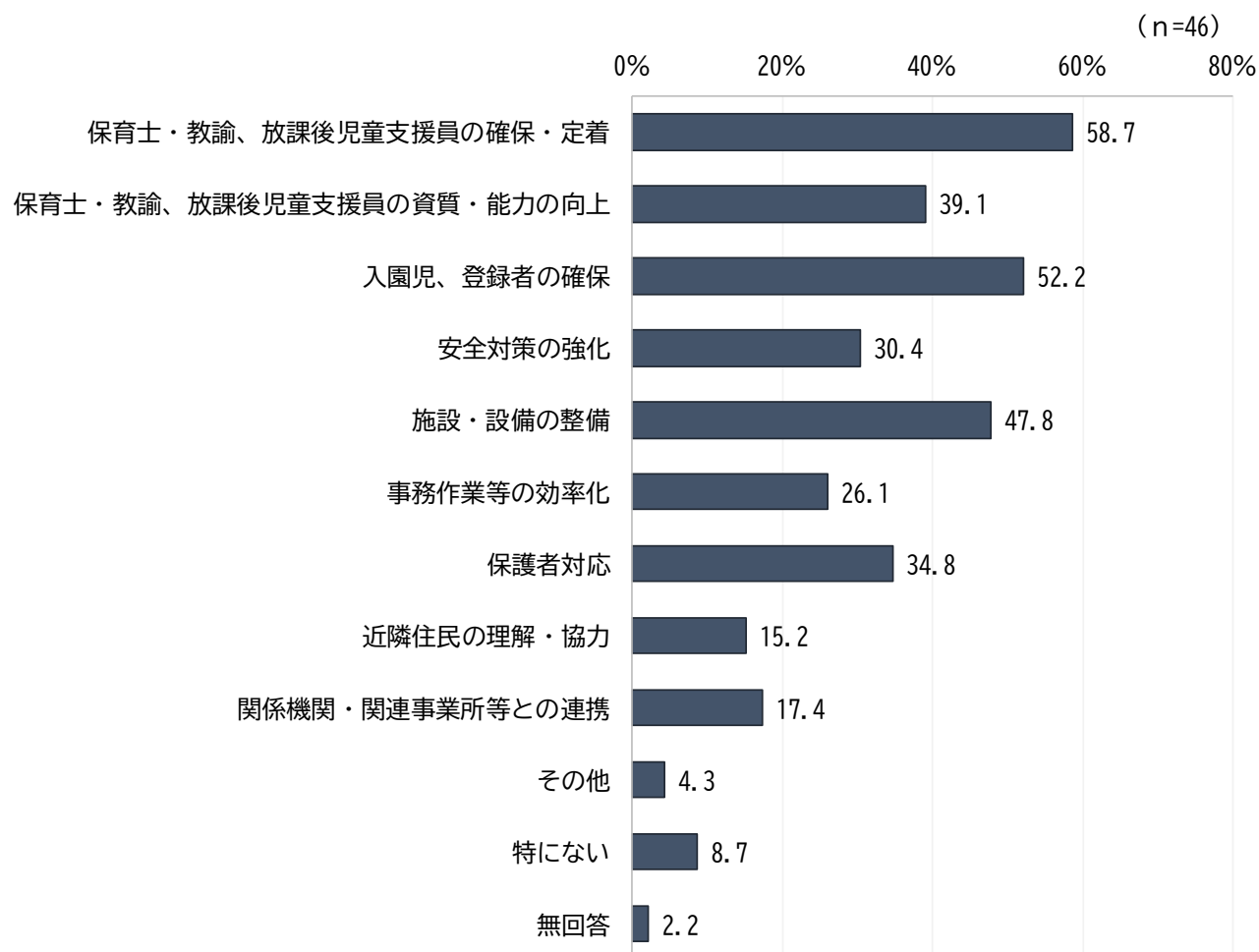
問1. 貴事業所の事業所名および事業形態をお答えください。



問2. 貴事業所の定員及び入園・室者数をお答えください。(令和6年4月1日現在)

		0 歳	1・2 歳	3～5 歳	小学 1～3 年生	小学 4～6 年生
幼稚園	定 員	—	—	320 人	—	—
	入園・室者数	—	—	196 人	—	—
認可保育所(園)	定 員	130 人	505 人	1,082 人	—	—
	入園・室者数	86 人	537 人	997 人	—	—
認定こども園	定 員	15 人	78 人	165 人	—	—
	入園・室者数	9 人	80 人	160 人	—	—
小規模保育室	定 員	21 人	48 人	7 人	—	—
	入園・室者数	5 人	47 人	7 人	—	—
認可外保育施設	定 員	20 人	56 人	61 人	40 人	—
	入園・室者数	5 人	25 人	39 人	32 人	—
学童保育室	定 員	—	—	—	388 人	
	入園・室者数	—	—	—	247 人	238 人
全 体	定 員	186 人	687 人	1,635 人	428 人	
	入園・室者数	105 人	689 人	1,399 人	279 人	238 人

問3. 貴事業所における運営上の課題は何ですか。主なもの5つまで✓を付け、特に課題となっていることについてご記入ください。



1. 保育士・教諭、放課後児童支援員の確保・定着について

■幼稚園・認定こども園

学生の実習の受け入れはあるが、とりあえず資格を取得という傾向の学生もいるため、就職へは繋がっていない。

保育教諭に突然の欠員ができて、補充が容易ではない。そのため、余剰人員を抱えざるを得ず人件費が運営を圧迫している。

■認可保育所（園）

ひとりひとりの子どもに丁寧に寄り添い関わって、子どもの発達の保障をしていきたいが、園の定める配置人数ではとても不可能であり、保育士にかかる負担も大きく、保育士のなり手が少なく募集をかけてもあまり確保できない。

産休・育休代替保育士や突発的な人員不足の補充が難しい。

人材不足、保育士の採用に苦慮している。派遣会社や人材紹介会社への出費がかさみ、運営にも影響している。

<p>保育士確保が困難です。他業種に比べ低賃金、重労働です。子どもの配置基準を大幅に見直し、委託費も上げてほしい。そうすることで子どもたちも安心安全に過ごし一人一人丁寧に見ることが出来、保育士も子供たちの育ちを細やかに感じながら成長を喜び合い、やりがいを持って働き続けられると思います。</p>
<p>慢性的な保育士不足である。紹介や派遣業者を使った場合高額な費用がかかってしまう。また、その場合も退職率が高かったり、資質にも課題があることがある。ハローワークからの応募は少なく、SNS等の手法を駆使する方法にも費用がかかることがある。</p>
<p>保育士の確保は、新卒・中途採用共に募集をしても応募がほとんどないのが現状。その為、職員人数は常にギリギリの為、一人ひとりの業務量が多く、仕事に追われてしまい自分の理想とする保育が出来ずにいる保育士も多い。結果として退職なども増えて全く定着をしない。残された保育士でその業務を更に分担するので業務量が更に増える悪循環となっている。</p>
<p>余裕のない人数で保育をしているため、産休や傷病等で保育士が欠ける時に足りなくなってしまうたり、募集をかけても職員の確保ができないことが課題である。</p>
<p>専門学校等がどんどん閉鎖していく状況の中、保育現場では気になる子どもたちも増えクラス運営が難しい状況。若い職員がやりがいの持てる職場にしていける為にも保育現場の状況改善（職員増員）が急がれる。</p>
<p>保育士確保は、年々難しくなっています。特に県北地域にとって、東京や県南との地域格差もあり、保育人材の流出にも繋がっています。そんな中、人材紹介等を活用せざるを得ない状況もあり、採用コストも増加しております。また、昨今の保育士養成校の希望者減少などの状況も踏まえると、ますます保育人材の確保が困難になると受け止めております。</p>
<p>保育士の確保が年々難しくなっています。特に深谷市は近隣に保育の養成校もないため新卒の確保が難しくなっています。</p>
<p>保育士の確保ができずに派遣や紹介所に頼っている。そのための出費が多く、運営に影響している。新人保育士を数年間採用できていない。新人保育士は収入や補助の多い県北や東京都に流れることが多い。また、保育士資格を持っていても収入が少ないために保育士にならない人が多く、政府が根本的に解決してほしい。</p>
<p>・ 求人募集しても、応募がほとんどないのが現状です。 派遣や紹介は金額が高く、それでも良いと、お願いしても来てくれない、保育士確保が永遠の課題です。</p>
<p>11 時間保育の中で、早番・遅番をローテーションしているが、保育士にとって大変な面が多い。</p>
<p>職員は比較的長期間勤務しているが、退職者がいたときに補充することが難しい（正職・パート職とも）。 保育学生が実習をしても、就職先は給料の良い都内を選んでしまう。</p>

■小規模保育室

<p>保育士の確保が年々難しくなっています。特に深谷市は近隣に保育の養成校もないため新卒の確保が難しくなっています。</p>
--

■認可外保育施設

保育園の運営を業者に委託しているが、保育士の確保・定着が難しいと感じる。
市の保育園に入れなかった場合に院内保育園を希望する職員が多く、市の結果を待っての人数調整になってしまうので難しい。

現状 有資格者が1名のため、入園、一時預かり児の入所をひかえている。

■学童保育室

勤務時間が19:00頃など遅い時間帯になるため子育て世代が働きづらい。仕事内容が多岐にわたり思いの外大変なのに給料に見合わないとなると若い世代、男性なども働きづらい。かといって小学生相手は体力仕事なので、子育てが終わった世代の方も定着しづらい。どこの層にもマッチしないので、正規、パートともになかなか良い人材が確保できない状況。

勤務時間の大変さ、長期休みは7:15~19:00までの勤務時間等もあり定着しない。また、賃金の安さから確保が難しい。

平日は遅くまで、夏休みなどは朝から夜までの長時間保育、仕事内容からも学童保育への専門的な知識もった職員が必要だが、職業的に収入が低くなり手がなかなかみつからず続かない。

放課後児童支援員の資格の取得方法が特別なため、資格をもっている人が少ない。

2. 保育士・教諭、放課後児童支援員の資質・能力の向上について

■認可保育所（園）

- ・自分で物事を判断したり、疑問に思ったりすることが不足している。
- ・日々の保育の中でおかしいなと思った場面でも、前年の通りに行いまた疑問も持たない。

コロナ禍に人と交流してこなかった人たちは、コミュニケーションをとるのが苦手な子が多く、質を向上させるのもなかなか難しいと感じる。保育士になってからも研修などで、資質・能力の向上をさせたいが研修参加を保障するために、その人らのクラスに入るフリーの職員が数人欲しい。

施設の老朽化に対して、修繕費がかさむ。

資質や能力の向上の為に、外部研修や他の保育園や施設と意見交換などをすることが、個人のスキルアップに繋がると考えるが、上記項目で示したとおりに場の提供をさせてあげられていない。近年ではオンラインの研修なども増加傾向にあり、当園でもなるべく参加をさせていますが、まだまだ学びの場が限られてしまっている。世の中が加速的に進化している中で保育スキルのアップデートができない状況。

確保が難しいこともあり採用の段階での保育士の質を担保することも難しくなっているように感じる。

保育士は日々の保育に精一杯で、研修などを受ける気力と体力がない。
また、平日の研修を受けたくても、保育体制が取れず、受けられないこともある。

■認定こども園

特別、資質・能力に欠けるわけではありませんが、常に向上し、その時代に合うようアップデートしていく必要があります。

■小規模保育室

確保が難しいこともあり採用の段階での保育士の質を担保することも難しくなっているように感じる。

■認可外保育施設

研修、講習等の受講時間を取ることが難しい。

■学童保育室

長く勤めている支援員（オンラインに慣れていない支援員）が多いため、新しいシステムやオンライン研修などの受講が難しい。

正規の職員は時間外に学習し自己研鑽をすることが仕事として位置づいているが、パート職員はきちんと学習会などの時給や参加費などを出しても、時間外に学習しようという方はなかなかいないので、能力の向上が困難。同じく会議時間の確保や職員間で保育を振り共有する時間の確保がしづらいことも能力や質の向上に関わっている。しかし、ほぼパート職員のため、質の良い保育につながりづらさがある。

3. 入園児、登録者の確保について

■幼稚園・認定こども園

幼稚園は満3歳児より入園だが、ほとんどの家庭が1歳を過ぎたらすぐに仕事へ復帰する傾向が強いように感じます。また深谷市の場合は、第1子0歳から保育料無償ということもあり、幼稚園も保育料無償とはいえ、なかなか幼稚園（満3歳から）の入園を希望する家庭は少なくなっているように思います。少子化もあると思います。

人口の少ない農村部に位置しているので子どもの絶対数が少ない。地域の未就学児に対するニーズも次第に変化しており、入園する年齢や就業状況にも変化が見られる。1号と2号3号の定員の見直しを行いたい。

これからは大きな問題になってくると思います。現状では1号認定の応募が少ない事も気になっております。

■認可保育所（園）

特に0歳児の入園が少なく、運営費が少ないため、経営が厳しい。

入園児が少しずつ減ってきているのを感じています。

出生率が激減している中、出生率を高める手段、又は転入者を増やす方法を市全体で考えるべきだと思う。又深谷市民間保育所の定員割れの状況が今後ますます問題となる状況下、市で大規模な施設を作ったという事に、非常に驚きであり、私個人としては憤りを感じている。

子どもの減少にともない園児の数が少ない。週が減るので定員変更しようと思うが、手続きに時間がかかり、その間は赤字となっているので、定員変更手続きを短期間にできるようにしてほしい。数か月で定員を変更できる市もあるときいた。

当園の現状では定員いっぱいの園児がいるが、2025 年問題の超高齢化社会や 2040 年を境に起こる人口の大幅減少などによる利用者の大幅な減少が想定され、施設の存続が危うくなると考える。ただ、この問題は事業者の努力では限界があり、国・県・市の今後の対応に期待をしたい。

3 歳児以降の入園希望者が極端に減ってきているので適正な運営のために定員減を考えている。

■小規模保育室

・入園児は第一希望でない園児が大多数であり、常に希望園に転園希望を出していて、その年度によって安定はしない、今後少子化の影響により、入園児確保が益々課題となる。

小規模保育室に通いながら（保育に欠けていない状態から）認可園への入園申請も行えることから、出入りが多く保育がなかなか安定しにくい。

■認可外保育施設

保育数の減少。

■学童保育室

公立学童ができてから、児童数が減り、学校から一番遠い学童なので、特に低学年の入所が少なく、登録の人数も少ないため、数年前から運営が厳しい状態が続いている。

児童数の減少で定員割れとなっている。

公立学童に対して、民間学童は、学校より離れている。また、保育料も公立よりも高くせざるを得ず、一年生からの入所が減ってきている。

公立と比較すると、立地や保育料の面で入室を考える保護者が多い。

4. 安全対策の強化

■認可保育所（園）

- ・園舎内外においての危険箇所を洗い出し、全職員で共通理解を行う。
- ・遊具の使用についても、人によってルールが違わないよう、一つ一つの遊具の正しい使い方を学ぶ。
- ・園の出入口の門扉は必ず閉め、ロープをかけておく。

ビデオカメラ等の安全対策は自主的に行っている園がほとんどであろうが、昨今の様々な保育中の事件や事故の多さから室内カメラ設置の補助金を設けて設置率を上げてはどうか？

不適切保育が社会問題になり、外部要因だけではなく内部による要因に対しても、安全対策を行う必要性もあります。熊谷市は令和 6 年度に、全部屋の防犯カメラ設置を推奨し、市単独補助金事業を行う予定です。深谷市でも、そうした安全設備整備における支援が必要と考えます。

- ・子どもの安全を守るためのセキュリティを強化すること

■認定こども園

危険箇所についてはヒヤリハット等収集し対策をしておりますが、ハード、ソフトともに様々です。不審者の侵入等への対策となると費用も智慧も必要になってきます。

■小規模保育室

保育室内外の安全対策はしていきたいが、費用面で考えてしまう。

■認可外保育施設

- ・ 防犯や重大事故防止マニュアルなど、マニュアルの充実と周知、徹底。
- ・ 安全対策を強化するための費用。

■学童保育室

震災や犯罪等が増えているため、安全対策を強化したい。

防犯カメラの設置、新しいフェンスの設置などをしたが、保護者からは心配という声がある。

5. 施設・設備の整備

■認可保育所（園）

園舎建設から 17 年が経過しているので、エアコン等不具合が生じている。

老朽化が進み建て替え、大規模修繕も視野に入れる中、水回りや設備等に傷みが見つかり修繕費がかさみ四苦八苦しています。

施設設備に関わる建築費はかなり高騰しております。平成 17 年の制度改正以降、従来の補助金制度「国 1/2、県 1/4、法人 1/4+市町村補助」から現在の交付金制度「国 1/2、市町村 1/4、法人 1/4」になりましたが、新子育て安心プランに参加する等一定の要件を満たす自治体は、国 2/3、市町村 1/12、法人 1/4 となります。その分で市の更なる市単独補助をしていただけるとありがたいです。

- ・ 施設の修繕や交換が必要なため、整備に時間と膨大な費用がかかること

民営化後 10 年が経過しており設備的に老朽化してきた部分もあり今後建て替えや大規模修繕を検討している。

■認定こども園

園舎も築 25 年以上となり、ところどころ不具合が出てきておりますし、また、新たに必要となる設備も増えることが考えられます。

■小規模保育室

施設(建物)の老朽化を考えた場合、この先、運営していくにはどうするか？と今後の動向を考えてしまう。

■学童保育室

費用の問題で、大掛かりな修繕が難しい。

市の土地、建物を借りて運営しているが、建物もだいぶ古くて児童が来ないという理由の一つ。庭があるが、庭木や雑草の手入れに時間やお金がかかる。

施設老朽や施設改善については、補助金制度もなく、自分たちで行うしかない、保護者負担が増えてしまう。

費用の問題で、大掛かりな修繕が難しい。

6. 事務作業等の効率化

■認可保育所（園）

処遇改善加算等の事務処理を簡略化してほしい。

ICT 化が進んでいない。保護者等との連絡、登園管理を効率化したい。
また、保育士が作成する資料は、ほぼ手書きである。

近年の ICT 推進の政策によって、大きくシフトチェンジをしたが未だに手書きや昔ながらのやり方が多く残存しており、デジタルとアナログが混在している。混在してしまっていることが原因で余計な混乱が生じた、書類も PC に保存してあるもの、紙ベースで保存してあるものがまちまちとなってしまう、非効率的となっている。また、PC での書類作成が苦手な方も多く、今後どのように PC スキルやデジタル化を進めるかが課題となる。

国では、更に自治体・保育事業者・ICT 関連事業者などで構成される協議会の設置などの取組を推奨しております。深谷市においても、この制度を活用し、地域の子育て環境の向上に努めることを切に願います。また、公定価格上では事務職員雇上費は、非常勤職員 週2～3日程度しか出ておりません。市として、常勤職員を安定雇用できる額を是非、国に要望していただきたいと思います。

■学童保育室

事務作業が年々増えていて、作業が追い付かないので効率化を図りたい。

児童数が少なく、運営が厳しいため、正規職員が1名で、忙しい時は保育と事務の両立が難しい。

パソコンでの書類作成などが増えてきている。

7. 保護者対応

■認可保育所（園）

メンタルを病んでいる保護者や、子どもの行動（家では良い子で、園で問題行動が多い）の理解が難しい保護者が増えている。

特定の保護者対応に困っている。市も対応に協力してくれているが、苦情を繰り返してくるので担任保育士が疲弊してしまい、離職につながる要因になっている。園に不満なら転園を勧めたいが難しいので・・・

気になる子が年々多くなっているように感じ、関わり方や保護者への伝え方が非常に難しい。

■認定こども園

配慮の必要な保護者が増えてきているように感じます。

■小規模保育室

年々子どもに対する育児知識が低下していると感じることが増えてきました。離乳食、トイレトレーニング、衣服の着脱など大人の都合で家で練習する様子のない家庭もあります。それとなく伝えているもののその時は少しずつやろうとしないで、親が気になった途端に急激にやらせようとする傾向がありま

す。子どもも急展開でついていくのが大変になるので少しずつの積み重ねと伝えているのですが・・・他にも伝えたいけどなかなか伝わらないこともあります。

職員は子どもたちのことを第一に考えてた中で保護者とは向き合ってはいますが、保護者からの主張が多すぎて、困惑し思い悩むことが多々ある。

■認可外保育施設

病院内保育室におけるサポート。

■学童保育室

保護者によって、学童に希望することが異なるため、すべての保護者の要望に応えるのは難しい。

8. 近隣住民の理解・協力

■学童保育室

子どもの声をうるさいと感じる近所の方も多くいる。

近年高齢化が進んできていることもあり、社会のなかで、子どもたちへの思いやりや理解、協力が薄れてきていると感じる。

子どもの遊ぶ音や声が騒音苦情になってしまう。子どもたちへの思いやりや理解、協力が社会全体にあると助かります。

9. 関係機関・関連事業所等との連携

■認可保育所（園）

上記のようなケースや、子どもの発達について関係機関と連携を取ったりケース会議をしたいと思っても、青少年課も保健センターも忙しそうでなかなか難しい。

発達に問題がある若しくは懸念がある子どもの対応が難しく、慎重さが求められている昨今、保育士の知識だけでは非常に難しいと考える。子どもの対応はもちろん、その保護者への接し方など一歩間違えば社会問題とされてしまう世の中で保育士の精神的疲労も計り知れない。保育士も専門家などへ気軽に相談や助言を求められる環境が必要と考える。

令和6年度より小学校接続加算が2段階立ての加算要件に変更になりました。市内全ての保育園が加算額 MAX に支給が受けられるように、2段階にあたる iii の要件において、小学校もしくは教育委員会や養成校との協議会を経て、深谷市内統一のカリキュラムを編成することを要望します。

■認定こども園

小学校との接続加算の要件に、小学校と連携した計画があげられているが、一民間施設が小学校と連携する手段がなく（小学校の激務を知っているので、相手にしていただけるかどうか）途方に暮れている

10. その他

■認可保育所（園）

認定こども園への種別変更の準備を何年も前からして市からも了承されていたのだが、昨年、1号認定の定員が市内で供給過多状態にあるということで市の方から一方的に変更できないとされた。

■小規模保育室

始めた頃に比べて近隣の保育園が増え、近年では殆どの園で乳児クラスの定員を増やしたこともあり年度はじめの園児数また途中入所の園児数が予想出来なくなり毎年不安です。

受入園児数を出来るだけ増やす為に保育士を増やす試みもましたが保育の質と次年度の運営を考えると難しい問題です。園児も保育士も定着して頂き安定した保育環境にしたいです。

■学童保育室

委託費、補助金などでの開室日数の条件。

「250日以上」という条件が平日の開室だけでは越さないため、土曜日に利用児童が来るかが毎年、悩みの種となる。現在、土曜利用児童がいるため大丈夫だが、固定の利用児童しか来ないため、その児童たちが卒室（退室）後、別の利用児童が入室するか不安である。

2. 保育士、幼稚園教諭、放課後児童支援員の確保について

問4. 貴事業所の保育士、幼稚園教諭、放課後児童支援員等の人数をお答えください。（放課後児童支援員が保育士や幼稚園教諭等の資格を有している場合は、放課後児童支援員の人数として数えてください。）

■幼稚園・認定こども園 ※（ ）内は1施設あたり平均（以下、同様）

	常勤職員	非常勤職員	計
有資格者	70 人 (14.0 人)	23 人 (4.6 人)	93 人 (18.6 人)
幼稚園教諭	－	1 人 (0.2 人)	1 人 (0.2 人)
保育士・幼稚園教諭両方	70 人 (14.0 人)	21 人 (4.2 人)	91 人 (18.2 人)
看護師	－	1 人 (0.2 人)	1 人 (0.2 人)
その他の保育従事者	6 人 (1.2 人)	5 人 (1.0 人)	11 人 (2.2 人)

■認可保育所（園）

	常勤職員	非常勤職員	計
有資格者	267 人 (14.1 人)	116 人 (6.1 人)	383 人 (20.2 人)
保育士	78 人 (4.1 人)	51 人 (2.7 人)	129 人 (6.8 人)
幼稚園教諭	1 人 (0.1 人)	1 人 (0.1 人)	2 人 (0.1 人)
保育士・幼稚園教諭両方	185 人 (9.7 人)	59 人 (3.1 人)	244 人 (12.8 人)
放課後児童支援員	－	1 人 (0.05 人)	1 人 (0.05 人)
看護師	3 人 (0.2 人)	4 人 (0.2 人)	7 人 (0.4 人)
その他の保育従事者	6 人 (0.3 人)	19 人 (1.0 人)	25 人 (1.3 人)

■小規模保育室

	常勤職員	非常勤職員	計
有資格者	17 人 (3.4 人)	17 人 (3.4 人)	34 人 (6.8 人) s
保育士	11 人 (2.2 人)	11 人 (2.2 人)	22 人 (4.4 人)
保育士・幼稚園教諭両方	5 人 (1.0 人)	5 人 (1.0 人)	10 人 (2.0 人)
看護師	1 人 (0.2 人)	1 人 (0.2 人)	2 人 (0.4 人)

■認可外保育施設

	常勤職員	非常勤職員	計
有資格者	13 人 (2.6 人)	4 人 (0.8 人)	17 人 (3.4 人)
保育士	11 人 (2.2 人)	4 人 (0.8 人)	15 人 (3.0 人)
保育士・幼稚園教諭両方	2 人 (0.4 人)	－	2 人 (0.4 人)
その他の保育従事者	3 人 (0.6 人)	3 人 (0.6 人)	6 人 (1.2 人)

■学童保育室

	常勤職員	非常勤職員	計
有資格者			
保育士	－	1 人 (0.1 人)	1 人 (0.1 人)
幼稚園教諭	－	2 人 (0.2 人)	2 人 (0.2 人)
放課後児童支援員	12 人 (1.0 人)	18 人 (1.5 人)	30 人 (2.5 人)
その他の保育従事者	－	15 人 (1.3 人)	15 人 (1.3 人)

問5. 貴事業所における最近1年間（令和5年度）の保育士、幼稚園教諭、放課後児童支援員等の採用人数及び退職者数をお答えください。（放課後児童支援員が保育士や幼稚園教諭等の資格を有している場合は、放課後児童支援員の人数として数えてください。）

■幼稚園・認定こども園

	採用人数			退職者数		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
有資格者	7人 (1.4人)	1人 (0.2人)	8人 (1.6人)	7人 (1.4人)	—	7人 (1.4人)
保育士・幼稚園教諭両方	7人 (1.4人)	1人 (0.2人)	8人 (1.6人)	7人 (1.4人)	—	7人 (1.4人)

■認可保育所（園）

	採用人数			退職者数		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
有資格者	47人 (2.5人)	30人 (1.6人)	57人 (3.0人)	27人 (1.4人)	18人 (0.9人)	45人 (2.4人)
保育士	15人 (0.8人)	11人 (0.6人)	26人 (1.4人)	9人 (0.5人)	6人 (0.3人)	15人 (0.8人)
保育士・幼稚園教諭両方	32人 (1.7人)	19人 (1.0人)	51人 (2.7人)	18人 (0.9人)	12人 (0.6人)	30人 (1.6人)
その他の保育従事者	1人 (0.1人)	2人 (0.1人)	3人 (0.2人)	1人 (0.1人)	1人 (0.1人)	2人 (0.1人)

■小規模保育室

	採用人数			退職者数		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
有資格者	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
保育士	2人 (0.4人)	—	2人 (0.4人)	1人 (0.2人)	3人 (0.6人)	4人 (0.8人)
保育士・幼稚園教諭両方	1人 (0.2人)	2人 (0.4人)	3人 (0.6人)	—	1人 (0.2人)	1人 (0.2人)

■認可外保育施設

	採用人数			退職者数		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
有資格者	2人 (0.4人)	2人 (0.4人)	4人 (0.8人)	3人 (0.6人)	2人 (0.4人)	5人 (1.0人)
保育士	2人 (0.4人)	2人 (0.4人)	4人 (0.8人)	3人 (0.6人)	2人 (0.4人)	5人 (1.0人)

■学童保育室

	採用人数			退職者数		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
有資格者	—	2人 (0.2人)	2人 (0.2人)	1人 (0.1人)	5人 (0.4人)	6人 (0.5人)
保育士	—	1人 (0.1人)	1人 (0.1人)	—	2人 (0.2人)	2人 (0.2人)
幼稚園教諭	—	1人 (0.1人)	1人 (0.1人)	—	—	—
放課後児童支援員	—	—	—	1人 (0.1人)	3人 (0.3人)	4人 (0.3人)
その他の保育従事者	—	2人 (0.2人)	2人 (0.2人)	—	2人 (0.2人)	2人 (0.2人)

問6. 貴事業所において、保育士、幼稚園教諭、放課後児童支援員等の確保・定着に向けて、特に力を入れている取組は何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い職場を目指す ・悩み事や困り事を聞き、寄り添う
<ul style="list-style-type: none"> ・職員間でコミュニケーションをとりやすい雰囲気作り ・毎月のクラスごとの話し合い ・学習の場作り
<p>職員がいつでも笑顔でいられるようにコミュニケーションをたっぷりとり、休暇も希望通り、なるべく取れるように調整する。</p>
<p>保育実習を受け入れ、就職希望者には声掛けしている。</p>
<p>確保は難しい、ボランティアや実習に来てくれた人が就職してくれることもあるが、ボランティアや実習生が来ない年もある。</p> <p>園長との面談を行い職員の意見を聞く。入職して数か月後の状況聞き取り。</p> <p>持ち帰り仕事をしなくてすむような、仕事内容の見直し。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習や研修で学ぶ機会を与えている ・休み（休憩時間・年休・生理休暇・健康休暇・慰労休暇・リフレッシュ休暇）を補償している ・労働時間7時間を厳守している。 ・ハローワークや学校の就活説明会に積極的に参加している。（毎回実績あり）
<p>実習生の受け入れ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の受け入れ・見学者の歓迎・学校への早めの対応
<p>有給休暇の取得率向上、代休の活用</p>
<p>一人ひとりの業務量を少しでも減らせるように ICT を導入した。まだ、導入間もない為、更なる改善が必要だと考える。書類なども今までは、手書きがほとんどだったがパソコンでの入力に変更した。また、今後はキャッシュレス決済システムの導入も検討中。</p>
<p>労働環境の向上と処遇の改善。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク、派遣会社等への求人掲載、集団面接会等へ参加している。 ・定着に向け、働きやすい職場環境への取り組み（有給取得のしやすさ。意見や悩み等相談のしやすさ） ・福利厚生の充実（クリニック受診、ワクチン接種）
<p>定期的な職員面談や施設外部にキャリアサポート窓口の設置を行い職員の悩みや相談に随時対応できるようにしている。</p>
<p>確保：養成校からの保育実習の受け入れ。実習生への声かけ</p> <p>定着：・休暇（有給・育休・等）を取得しやすい環境にしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シフト希望を叶えている。 ・面談等を充実させて、職員の意見・希望等の聞き取りをしやすいようにしている。
<p>就労環境の改善、産休育休の取得し易さ。</p>
<p>定期的な職員面談や施設外部にキャリアサポート窓口の設置を行い職員の悩みや相談に随時対応できるようにしている。</p>

<p>確保は難しい、ボランティアや実習に来てくれた人が就職してくれることもあるが、ボランティアや実習生が来ない年もある。</p> <p>園長との面談を行い職員の意見を聞く。入職して数か月後の状況聞き取り。</p> <p>持ち帰り仕事をしなくてすむような、仕事内容の見直し。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけたり、希望を聞いたり、気軽に相談できるようにコミュニケーションをとる。 ・ICTシステムを活用して、業務削減を図るようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員、パートともに入職初月より有給休暇取得あり ・子どもから離れての休憩確保 ・土曜保育で勤務した場合の代休、半休あり
ワークライフバランス
<p>残業が少ない、休みがとりやすい等、働きやすい環境です。</p>
労働環境の向上と処遇の改善。
<p>定期的な職員面談や施設外部にキャリアサポート窓口の設置を行い職員の悩みや相談に随時対応できるようにしている。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 残業等にならないよう勤務時間を守るようにしている。 2. 休みの希望は、出来る限り配慮し休みを取りやすくしている。
<p>休暇の取れやすい環境づくりをしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを導入して、業務量の削減を図っている。 ・気軽に相談できるように、声をかけたり、意見を聞いたりして常にコミュニケーションをとっている。
<p>保育者の労働時間 子どもの人数より保育者の配置人数を多くして負担を減らしている。</p>
<p>職員間での昼礼など行い、感謝の気持ち等を伝え合い、コミュニケーションを密に図るようにしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・産休、育休後のサポート、子育てしながら働ける環境作り。 ・一人一人の意見の尊重、自由な発言、個々が考える理想の保育のサポート。 ・定期的な面談や声かけ、サポートなど。
働きやすい環境整備。
<p>今の現状を維持していく方向で検討中。</p>
賃金改善。
<p>確保については、他の施設と同額または高めの時給に設定する。</p> <p>定着については、昇給を行う、待遇の見直しなど行う。</p>
<p>毎月のミーティング等でコミュニケーションを図る。</p> <p>研修を受講し、支援員としての資質向上を目指す。</p>
<p>働きやすい環境を整えることに力を入れています。</p>
<p>やりがいのある仕事内容。</p> <p>職員間のコミュニケーションを図る。</p>
<p>働きやすい職場の環境作り。</p>

問7. 保育士、幼稚園教諭、放課後児童支援員等の確保・定着に向けて、行政（国・県・市）からどのような支援があるといいと思いますか。

・給与の面で保育士の働き方を支援してほしい
・公私格差是正の大幅アップ ・現場で保育士として働く事への手当金
・処遇改善 ・配置基準の改善
保育士紹介業者は手数料が高いので、公で保育士バンク等があればいい。
収入補助。
・配置基準の見直し・公私格差をなくしてほしい・療育手帳や診断書がなくても（親が受け入れられない親都合）加配が必要な子について、発達相談の時に見極めて加配措置を取らせてほしい。・埼玉県社会福祉施設子育て支援事業補助金について 12 月までに協議書を提出しないといけないという締切日は困る。冬はケガが多く、長期にわたるケガが原因で離職につながりかねない。
緊急の場合の保育士紹介。
・負担の軽減・給与の改善
支援ではないが、まず、週 6 日、66 時間の必須開園時間を見直すべきではないか。時間・仕事の量など働き方改革は進んでいない。ICT 化では解決しないことのほうが多いと思います。
大前提として処遇の改善が大きなポイントと考えられる。業務量の割に対価が少なく、理想と現実がかけ離れていると感じる。また、働き方改革の実施が急務とも思う。実情として働き方改革をしたくても出来ない施設も多数あると思うので、行政主導で新たな取り組み（書類の簡素化・DX 化へのスピーディな移行など）が必要と考える。更に、福祉事業は賃金が低く、そのイメージが世の中に定着してしまっているのでマイナスなイメージの払拭を出来る政策。
計画や記録等書類の簡素化。 処遇の改善、ICT に関しては常にアップデートする必要があるため最初だけでなく継続的な支援を希望する。
・給与を増額できるような補助金 ・県外へ新卒者が流出しない様な取り組み
市内で働きたい希望者を登録バンク制を作り、市の方でも補助を出して頂き、必要性のある現場で協力体制が取れるようにしていただけるとありがたいです。現在設立している民間施設が今後も運営していけるようひとつの支援として検討して欲しい。
給与を増額させるための、補助金による支援があるとよい。
人材紹介の紹介手数料や直接雇用と派遣職員との時給差額分に対する補助制度、産休育休代替職員雇上にかかる費用や周囲の職員に対する業務増加に対する特別手当等の補助など。
埼玉県の保育士の平均年収は 377.9 万円と東京都（453.5 万円）、千葉（388.2 万円）、神奈川（416.7 万円）と 1 都 3 県の中で保育士の平均年収が最も低く全国平均の 396.9 万円も下回っている現状ですので、現在も深谷市民間保育所等職員給与改善補助事業を行っていただいているところですが、格差是正のためにもより手厚く改善をしていただけるとありがたいです。

収入の補助 給料の良い県北や東京都に保育士が流れる
・業務量の割りに賃金が低く、拘束時間も長いなど魅力のない仕事のため保育士不足がさらに加速すると思う。資格がなくても子育て経験があれば保育士として認めてほしい。 誰でも保育士制度を導入し、社会全体で子育て支援していくようにしていく。
・処遇改善をより手厚くしてほしい
宿舍借り上げ、就職お支度金（社会福祉協議会貸付金の5万円分の補助）
処遇の改善と保護者への支援です。
計画や記録等書類の簡素化。 処遇の改善、ICTに関しては常にアップデートする必要があるため最初だけでなく継続的な支援を希望する。
処遇改善等の手当を増額してもらえると良いと思う。
・命を預かる仕事の業務量の割りに対価が低いことが、原因だと思う。 長い拘束時間、手の抜けない仕事内容、いろんな子どもといろんな保護者への対応、気を使い、言葉を選ぶ時代、本当に毎日が疲労困憊の仕事である。保育時間、仕事内容等、保育士の働き方改革を国全体で考えていただきたい。
保育士への助成金は、平等にして頂きたいです。（認可外は対象外な為）
保育士バンクのようなもので、お試して勤務体験が出来たりするようなものがあればいいと思う。
・認可外保育所の保育士でも保育士支援金等の支援を平等に欲しい。 ・認可外保育所の保育士等を対象とした研修を充実していただきたい。
所得が増えるような施策。（給付、減税など）
常勤職員をきちんと配置できるようにする。（常勤3名）
特にこれといったものは思いつきません。
児童数が減っているので、運営が困難にならないため（職員が定着するため）の補助金。 公立学童との共存（児童数を振り分ける、保育料の差をなくすなど）。 学童の保育料の補助。
処遇改善手当のアップ。
仕事量に比べて賃金が安い等といった声も聞こえるので、給料のための補助があると良いと思います。

3. 今後の事業展開について

問8. 今後、事業の拡大もしくは縮小等の意向はありますか。該当するものに✓を付けてください。

	定員を 拡大したい	定員を 縮小したい	新たな事業所 を設置したい	今のところ 予定はない	わからない
幼稚園・認定こども園	2	2	—	2	1
認可保育所（園）	1	6	1	8	3
小規模保育室	—	—	1	3	—
認可外保育施設	—	1	—	4	—
学童保育室	1	1	—	7	2

問 8-1 問 8 で「1」もしくは「2」を選択したかたに伺います。

いつごろ、何人拡大・縮小したいですか。下の表に人数を記入してください。

（合計値）

定員		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	学童
	増	0 人	0 人	6 人	8 人	8 人	8 人	0 人
	減	1 人	0 人	6 人	16 人	16 人	16 人	0 人

問9. 幼稚園、認可保育所（園）のかたに伺います。今後、認定こども園に移行する考えはありますか。

	ある	ない	わからない
幼稚園・認可保育所（園）	4	7	9

問 9-1 問 9 で「1」を選択したかたに伺います。その理由は何ですか。

- ①保護者の就労を問わず入園や継続が可能であり園児も卒園まで安心して通うことができる。
- ②保護者にとっては保育者全員が保育士と幼稚園教諭の両方の資格が担保されることで安心に繋がる。
- ③法に基づいた教育を園児に提供できること。
- ④配置基準が高くなるため、保育教諭の量と質を高い基準で維持することで子ども達により細やかな対応が可能となるため。

昨今、幼児教育・保育に求められる役割は、就労する保護者や支援を必要とする家庭の増加により多様化しております。そのような中、子育て家庭が安心して子どもを預けられる環境づくりやより質の高い保育、教育に取り組みこれまで以上に利用しやすい園を目指していくために移行を希望し続けています。

保育園は「養護と教育」を定義としており、保育指針においても、同等の幼児教育を行っておりますが、法的な教育施設という位置づけからは外されており、公定価格の単価や満3歳児問題等、公平性を欠く諸課題が生じております。今後の動向では、認定こども園への移行を検討しなければなりません。

昨今、幼児教育・保育に求められる役割は、就労する保護者や支援を必要とする家庭の増加により多様化しております。そのような中、子育て家庭が安心して子どもを預けられる環境づくりやより質の高い保育、教育に取り組みこれまで以上に利用しやすい園を目指していくために移行を希望します。

問 9-2 問 9 で「2」を選択したかたに伺います。その理由は何ですか。

・ 人員の確保や保育室の確保ができない

1号認定のこどもと、2号・3号認定のこどもが混在するのは、子どもにとっても職員にとっても負担が大きく難しいため。

子どもたちの成長、発達の最善を求めていくことを公的責任の中で保育の必要がある子全ての子に保証していきたいと考えています。

既存の敷地面積が狭く、園舎拡張ができない。また、今後少子高齢化が更に加速する中で需要があるのか不明確な上、資格を持った人材の確保が出来るかわからない。

現状で問題はないと感じる

問10. 学童保育室以外のかたに伺います。0～2歳児の保育料の完全無償化により、どのような影響がありましたか。

・ 保護者にとってはとても有難いことです。
・ これからも続けてほしい。

昨年度は早めに入所してくれる子が多かった。

乳児の入園の問い合わせの中で、「今は、深谷に住んでないけれど引っ越す予定です。入園できますか？」という言葉をよく聞きます。

金銭面の負担がないので、保育園に預けやすくなったと感じる。

特に変化はなし。入園予定を早め4月入園が増えた。そのため自営業の方等慣らし保育にゆとりが持てる利点と、お休みすることが多い点が目立ちました。

あまり無償化の影響は感じない。コロナ5類移行で未満児の入園率が上がった感はあるが？

影響は特になし。ただし、保護者からは喜びの声が聞かれた。

家庭で保育可能な方が見学に来られるケースが増えたと感じる。保育施設の安易な利用から親の養育力の低下に繋がってしまわないか心配である。

また、年度初めにほとんどの園の定員が埋まってしまい、保育を本当に必要としている育児休業中の家庭が年度途中に入園できず、やむを得ず仕事復帰を翌年度まで延長するケースが増えている。保育現場でも保育士が復帰できず人手が足りないケースが出てきて困っている。

・ 低年齢でも利用したいと考える家庭が増加した。
・ 年度の後半には、0歳児受け入れ枠が減少し、入園待ちになっている。

無償化のプラス面といった事は、具体的には聞こえてきていないが、0～2歳児入園の増加が反映されている事ではないかと考えられる。

入園希望児童や見学者が多くなったように感じている。
子どもを預けやすくなったと感じる。初めのころは保育料無料を聞いて引っ越してきた園児もいたが、隣接する市も保育料無料を始めるとどうなるかわからない。
・完全無償化により、3歳未満児の入園者が増加した。
未満児の標準時間認定児が多く入園し、延長保育利用児が増え、保育士の負担になっている。
保育料の集金がなくなったので、認定こども園としてはありがたい。 他市町村からの転園が今年度は顕著に増えている。
現在のところはまだ特に影響には気付いておりません。 事務的なことと言えば集金業務に煩わされず助かっております。
入園希望児童や見学者が多くなったように感じている。
入園児が増えたと思う。
特になし。
・県内初の無償化で、子育て世帯にとっては最大の子育て支援策になり、入園者数は増加したと思います。
保育園への預け替えが増え、保育数が減少しました。
市の保育園を希望する者が増え、院内保育園の希望者が少なくなった。（保育料は償還払いができることは説明している）
自施設では影響は無いが、深谷市在住の保護者からは「助かる」等の言葉が聞かれる。
あまり影響はない。
特にない。
なぜ学童は無償化の対象にならないのか聞かれた。
特に影響はありませんでした。
幼稚園は短い保育時間、保育園は長く見てもらえるといった考えの家庭がいまだに多いため、幼稚園の入園者数が減り、保育園の入園を好む家庭が増えた。

問11. 学童保育室以外のかたに伺います。「こども誰でも通園制度」が創設され、本格実施に向けた取組が進められていますが、貴事業所では、実施事業所の指定を受けたいと思いますか。該当するものに✓を付けてください。

	指定を受けたい	指定を受けたいと思わない	わからない
幼稚園・認定こども園	3	1	1
認可保育所（園）	5	6	7
小規模保育室	1	1	2
認可外保育施設	—	—	5

問 11-1 問 11 で「1」を選択したかたに伺います。何人くらい受入れが可能だと思いますか。

合計 23 人程度 （平均 2.6 人程度）

4. これからのこども・子育て支援について

問12. こどもの健やかな成長を支えるために、今後、深谷市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。

・子どもが安心して遊べる公園や、小動物と一緒に触れ合える場所

0歳から2歳児までの保育料無償化で、保護者にとってはとてもありがたいと思うが、その受け皿としての保育園には金銭的・人的支援が不十分です。保育士を増やしてゆとりある保育をできる事が、子どものためにも必要不可欠なので、「深谷市でなら保育士として働きたい」と思える施策が必要だと思います。

また、関係機関と十分に連携して保育できることが必要なケースが大幅に増えているので、関係諸機関にも余裕が欲しいです。

・安心安全の上で、思いきり五感を使って身体中を動かして遊べるような、自然いっぱい広い公園を作る。群馬県や東京都のように大きな樹や木陰のある夏も涼しく過ごせる戸外でのあそび場の増設。

・子育て中のママパパが交流したり、相談したりできる場を増設。

などに、力を入れてもらえると、こどもの健やかな成長を支えられるのではないかと思います。

公的な療育施設を1つ作ってほしい。新しい幼稚園ではなく療育施設が深谷市には必要だと強く感じる。新設する幼稚園にも療育施設が入ればとても市民のためになると思う。子育てに悩む親は多く、しかし簡単に相談できる施設がない。保健センターも月に一度見てもらえれば多い方だと思う。

寄居の療育施設や民間の療育施設はどこも申し込んでも1年近く待つと聞く。

年少のころから療育を行えば就学までに周囲との差が少なくなるケースもあり、子どもや家族の助けになるのでお願いしたい。

障害児ではなく気になる子が多くなっています。この時点での対応が密にできる場があると良いです。

保育料の無償化など、子どもや子育て世代に魅力的な政策を今後も継続して続けていただきたい。ただ、こどもの健やかな成長を考えたときに、子どもを支える側への支援も非常に重要になると考える。保育士や教員・福祉関係・医療関係など各関係先の現場従事者の負担は増える一方で人手不足に悩まされている事業所は少なくない。負担が増えることにより、子ども達と向き合う時間が削られてしまったり、スキルアップをする時間が削られてしまい結果として子ども達へしわ寄せがいつてしまうと思う。問題の本質がどこにあるのかを明確にして根本を解決するために、経営者や責任者ではなく現場で実際に働いている従事者達の意見交換会や意見聴取を定期的に行うなど現場の実態・リアルな声に耳を傾けていただきたいと切に願います。その中で出た意見等を元に問題解決に繋がる改正や改革・政策の策定に努めていただきたい。

保育所・幼稚園・認定こども園更に私立と公立等未就学施設は色々あるが、どの施設で過ごしても小学校に上がる際は同等の能力（という言い方は語弊がありますが）を持って上がるということを広く周知すべきだと思う。また、特に行政側に『公』の方が優れているという考えが根本にあるらしく広報等を読むとそれが読み取れてしまう。

3歳以上児～小、中学校の給食費を無償化にして、家計の負担を軽減させる。

気になる子の対策として、本庄市の支援の仕方を導入してほしいです。又気になる子3人に対し1人の保育士加配では、お子さんの状況により年齢の違い、性格、行動性の違い等々を考えるととても厳しい現状です。

保育所や幼稚園の整備、保育士の人材確保に向けた取り組みをお願いしたいと思います。

<p>子育てしやすいまち「深谷」として子育てにさらに一歩踏み込んでいただき、深谷市全体での気になる児童数等を把握したうえで未就学児に対する児童発達支援に力を入れて欲しいと感じている。</p>
<p>30 以上もの保育園がある市なので、公的な療育施設を 1 つ作り子育て支援をさらに強力にしてほしい。大きな幼稚園や保健センターの近くにそのような施設があれば、市民はとても助かると思う。実際、公的な療育施設も民間の療育施設も人数オーバーで申し込んでも 1 年近く待つと聞く。年少のころから療育を行えば就学までに周囲との差が少なくなるケースもあり、子どもや家族の助けになるのでお願いしたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・手厚い保育をするためには、保育士不足を解消することが大前提であり、処遇改善がポイントとなる。保育料無償化など今後も継続していただき、子育て世帯は深谷市といえる市として、若者が住みたいと思える政策や子どもに優しい魅力満載の街づくりに取り組んでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立、私立の保育士が一緒に行う研修会をふやしてほしい。 ・ 気になる子の保護者への支援・相談
<p>子どもを産んでもらうための取組。 産んだ子どもの養育に関してはかなり力を入れているけれど、肝心の出生数が増えないため。あと、大学までの教育費無償化（これは国レベルですけど）。</p>
<p>子育てしやすい世の中になってきていると思いますが、子育て家庭への理解をさらに深めるような施策があるといいですね。抽象的ですが。</p>
<p>保育所・幼稚園・認定こども園更に私立と公立等未就学施設は色々あるが、どの施設で過ごしても小学校に上がる際は同等の能力（という言い方は語弊がありますが）を持って上がるということを広く周知するべきだと思う。また、特に行政側に『公』の方が優れているという考えが根本にあるらしく広報等を読むとそれが読み取れてしまう。</p>
<p>子育てしやすい町「深谷」として子育てにさらに一歩踏み込んでいただき、深谷市全体での気になる児童数等を把握したうえで児童発達支援に力を入れてほしいと感じている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病後児保育の定員を増やすこと。 ・ 小規模園では対応の限界があると思うので、アレルギーや障害のある子どもなど支援の必要なお子さんの受入れを専門職（栄養士・看護師・保健師）を常駐して公立園又は指定の法人園で入園できるようにしてほしいです。受入れ体制があれば、支援の必要なお子さんも「こども誰でも通園制度」が利用できるのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士研修の充実 ・ 施設への援助（光熱費等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域全体で子どもの育ちや子育てを支える支援に特化した市に取り組む。 若者の移住先候補として、まず災害の少ない市、新鮮な農産物、保育料無償化、渋沢栄一生 誕地として、栄一翁の慈悲のこころ、忠恕のこころ、論語の里としての教育など、他市にない特色ある魅力を打ち出し、移住支援金事業や、お試し移住など、多くの若い子育て世代に 移住してもらう取組。
<p>1、2 歳向けの公園の設置。 児童館。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が安心して子育てできるような環境の整備。 ・ 認可外保育園の拡充に資する補助金の交付をお願いしたい。
<p>こどもの安全を守るための環境改善への補助金交付等、施設への金銭的支援の充実。</p>

国の政策が全く効果がないので深谷市の取り組みには期待してます。保育完全無償化は、良いと思います。子育てするには、今の税制は重すぎるので軽減する措置は必要かと。理想は消費税減税かと思いますが、国の管轄でしょうから住民税を減税するのは有効かと。

以前に保護者様から深谷市のコミュニティバスくるりん号について、「未就学児は無料なら一緒に乗る親（同伴者）も無料ならいいのにね」というお話しがありました。

特にありません。

学童は保護者の方が働いているため、保護者の方からは「時間が足りない」という声をよく聞きます。保護者の方の充実な日々も、子どもの成長に影響すると思いました。取り組みについては、具体的なことはわかりませんが…。

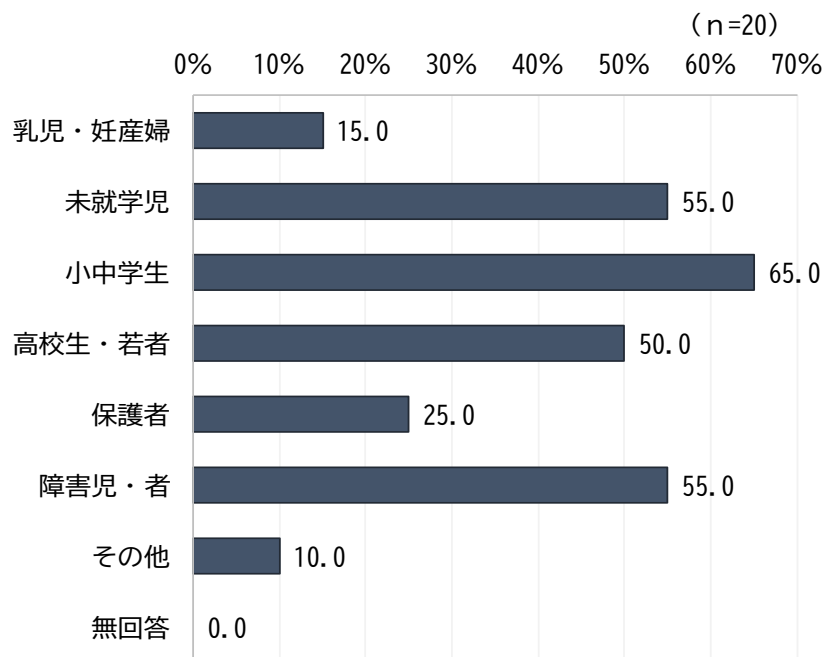
幼稚園・保育園施設はたくさんあり、充実していることは大変良いですが、地域によっては、少子化で入園する園児を確保することが厳しい場所もあります。深谷市全体で、偏りなく子どもの少ない地域にも、子どもが集まれるようにすることで、市全体が子どもを育てやすい環境となることを願います。

2. 関係団体調査

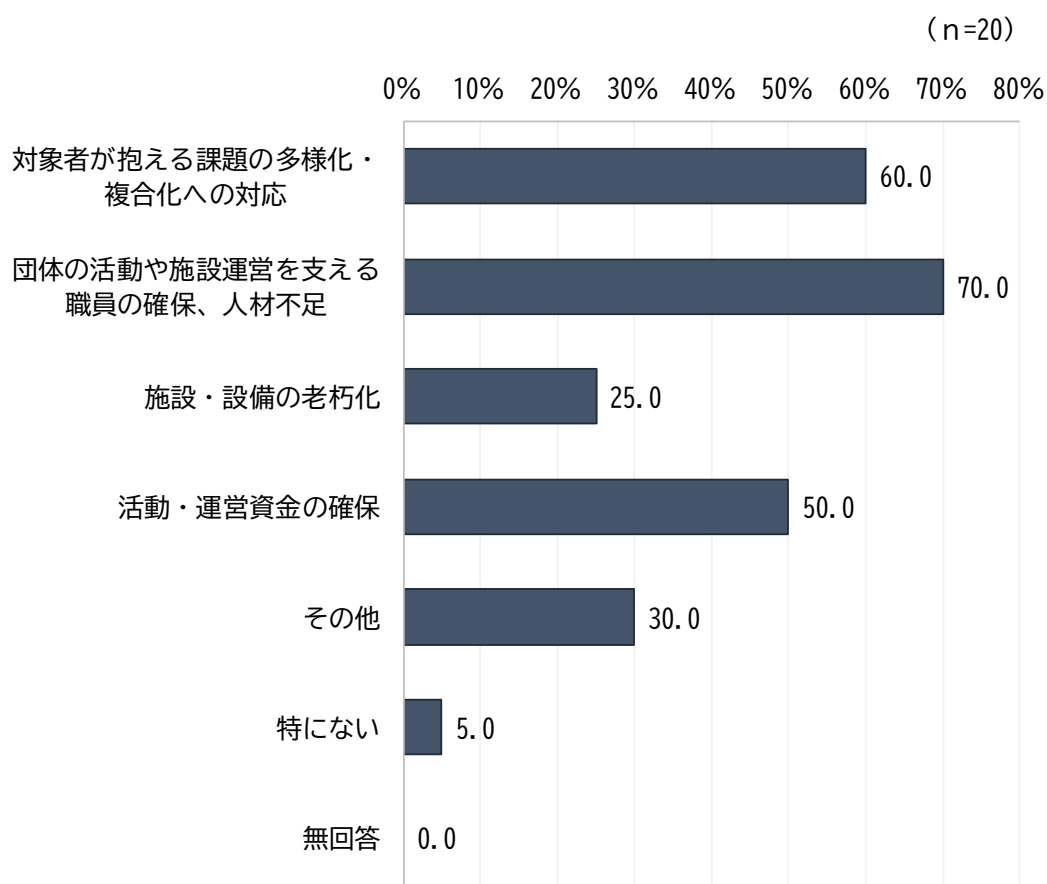
問1 はじめに、貴団体・施設の概要について教えてください。

種別	団体数
児童養護施設	1
自立援助ホーム	1
ファミリーホーム	3
児童発達支援	1
放課後等デイサービス	6
児童発達支援・放課後等デイサービス	3
ふかや子どもの居場所づくりネットワーク	5
計	20

■活動の対象



問2 活動・運営していくうえで困っていることや課題はありますか。該当するものに✓を付けてください。（複数回答可）



問 2-1 問 2 で回答いただいたことについて、具体的にご記入ください。

■児童養護施設

多くの入所児童が被虐待経験があり、それに起因する様々な課題を抱えています。子ども達が利用する学校等教育機関、医療機関、就労支援機関の理解と連携がますます重要になっています。職員確保については、現状充足はできているものの、県内他施設では職員が確保できないために入所依頼を断るケースもあり、常に不安も抱えています。

■自立援助ホーム

利用者数は少ないが、ほぼ全員が何らかの精神疾患、発達障害、愛着障害、知的障害、PTSDなどを複合的にもっているが、職員は保育士、児童指導員がメインで、こうした複雑な事情をもった子ども達を支援する専門知識・技術をもっていない。本年度より金銭的な支援は向上したが、人材確保が非常に困難であるといえる。また行政手続きも特殊かつ複雑なので、社会福祉士や精神保健福祉士等の配属が強く望まれる。

■ファミリーホーム

- ・ほぼすべての対象者が判定のでの障がいやグレーゾーンの能力のため、専門的な個別の対応が求められる。
- ・その職員の確保が重要となるが、それをまかなえる運営費はない。
- ・養育者のボランティア要素がかなり多い。

児童が表出する外面的、内面的、問題行動の多様化に対処すること。

■放課後等デイサービス

現在の建屋に移転し、16 年目になり至る所で老朽化してきている。また、親の働き方が多様化してきたため、送迎を行う、希望する方が多くいるため、車両の確保、運転手の確保が必要になってきた。送迎をしてくれるかどうかで利用を考えるご家庭も多く感じる。それを維持するにもお金が必要になってきている。

主に身体不自由児を対象としていますが、一人一人のニーズに合わせた支援を提供していくことと、10 人程度の集団を保育することの組み合わせが毎日ですので、指導員の負担は大きいものです。加えて保護者への対応や、3 年ごとの報酬改定でより複雑化している事務仕事など年を追うごとに負担が増しております。よって職員を増やして対応したいところですが、事業を安定させつつ職員を増やすことは困難となっております。施設修繕や送迎車両の整備にも資金が必要です。

- ・通所されているお子さんが発達障害ということもあり、問題や保護者様の要望が多様化している。また、保護者さんの望むレベルの違いもある。
- ・職員の人数は足りているが、職員の能力値（知識や経験など）に差があり、そのため職員の配分によってその日の大変さが違ってくる。

1. 保護者様の（子ども）育児の限界（子どもへの接し方）。精神的に幼く未熟だが、身体は大人になっていく。
2. 職員がやめてしまう。長く勤めている人が多くない。
4. 賃金の底上げをお願いしたい。活動費の補償。

専門的スタッフを求人でもお願いしても他業職（他業種）にになってしまう。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

若手の人材確保が難しい。

利用者は少しずつ増えてきてはいますが、全曜日が定員に満たない。月曜日、火曜日、水曜日が集まらず、木曜日と金曜日は埋まっている。

感染症が流行すると欠席者が増え、運営上利用者の人数が減ると収益が減ってしまう。体調などの理由なので、もう少し補助や支援があってもよいと思います。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

2. 活動を支える人材不足（特に食品等を運ぶ人材が不足しています。）
3. 活動している施設、設備が古く度々修理に費用がかかっています。
4. 安定した資金の確保が課題です。

2：スタッフ、ボランティアの人数は充分だが、開始年数が経過するにつれ高齢化してきて体力的に厳しい状況もある。スタッフ等の若返りの必要がある。

5：公民館を借用しているが、調理場所（調理室）と配布場所（敷地内の別建物）が離れている。調理担当者には利用者の顔が見えない。配布担当者には調理の様子が見えずコミュニケーションがとりにくい。調理室の隣での配布が理想だが難しい状況にある。

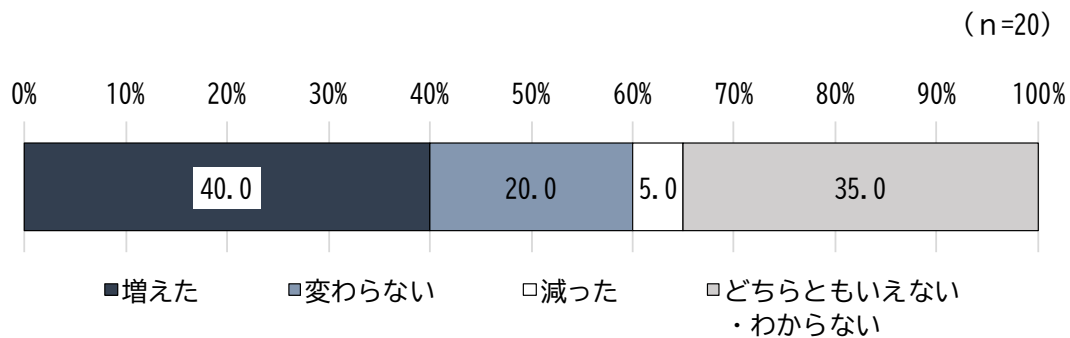
- ・生活困窮者とはどこで判断すればよいかわからない。
- ・公共施設をお借りしているので、設備が古い。

「4. 活動・運営資金の確保」「5. その他（食材の確保）」に共通している課題として、食材にかかる費用、消耗品にかかる費用が一番費用となるため、食材の提供があると大変助かります。

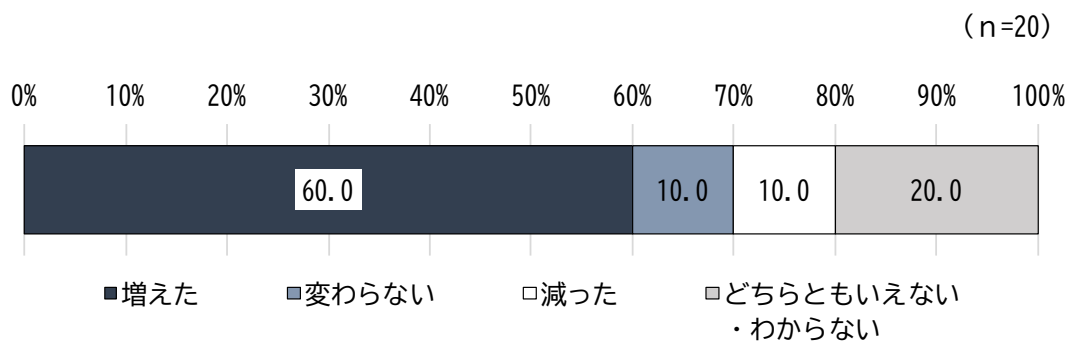
子ども食堂に比べ、フードパントリーの認知度は低く、支援品が集まりにくい。また、物価高騰などで寄付が減少しており配布品も減っているため、助成金でのやりくりを模索している。

問3 こども・若者や子育て家庭について、この5年間でどのように変化していると感じていますか。①～④のそれぞれ該当するものに✓を付けてください。

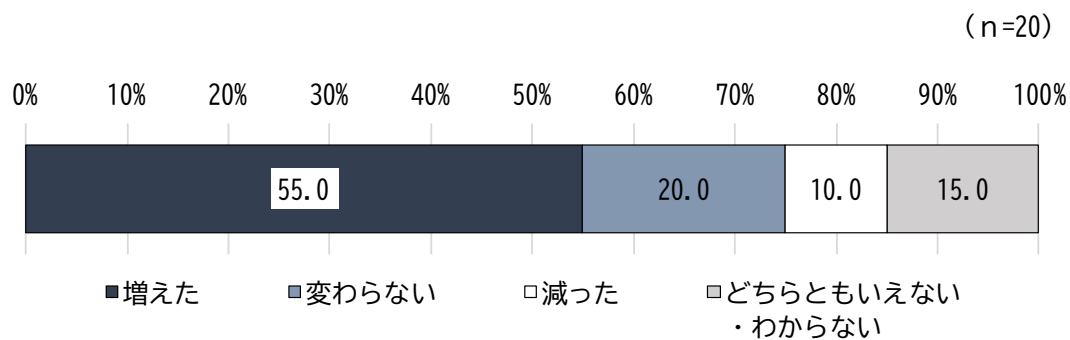
①こども・若者の悩みや困りごと



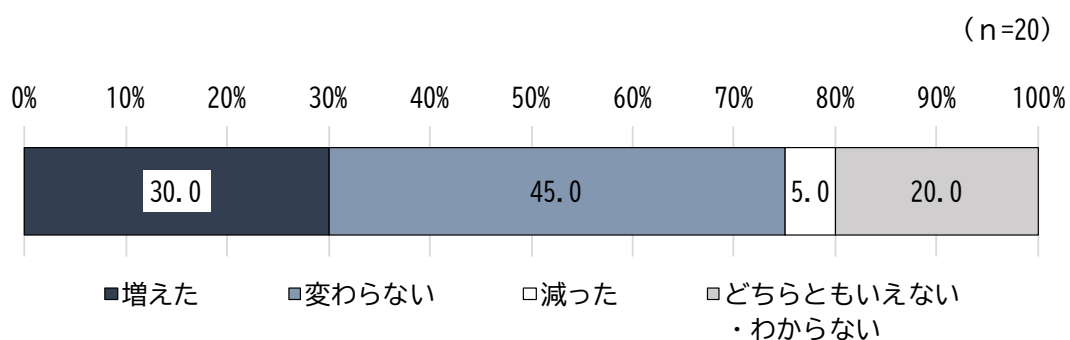
②子育て家庭の悩みや困りごと



③子育ての負担感



④こどもや子育て家庭に対する理解



問 3-1 問 3 で回答いただいた変化について、具体的にご記入ください。

①子ども・若者の悩みや困りごと

(増えた)

■児童養護施設

入所児童の多くが被虐待経験があり、それに起因する課題も深刻化している。

■ファミリーホーム

施設に来るまでの生活で培ったものは、良いものも悪いものも、なかなか変化させることは難しい。又、親と一緒に暮らせない不安や悩みは決して解決するものではないと思う。

内面的な悩みに対しての支援が難しくなってきた。症状が多様化してきているように感じられる。

■放課後等デイサービス

不登校時の家庭が出てきた。

- ・ SNS やゲーム等の問題が増えた。
- ・ 人間関係において関わる機会が減っているためか、考え方が幼い。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

児童同士のコミュニケーションの取り方がわからない児童が増えている。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・ 教育にかかる費用の負担
- ・ 不登校など学校での悩み
- ・ 将来への不安
- ・ 進学への不安（学力、お金）

(変わらない)

■自立支援ホーム

5 年以上前から養育相談にも携わってきたが、5 年では何も変わっていない。コロナなど外的要因は表面的な問題で養護問題の本質的には変わっていない。

■放課後等デイサービス

子ども達は変わらずパワーがありほがらかである。親が悩みや困りごとがなければ子ども達は幸せなのではないでしょうか。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

物価高騰が続く中、子どもにおいても影響が大きい。（ひとり親家庭）

(減った)

■放課後等デイサービス

通所しているお子さんが、以前に比べて問題を抱えていない子（問題が少ない子）が増えた。以前の子は暴力的で問題が大きく、職員にも暴力を振るっている子がいたが、その子達が卒業したため現在通っている子も落ち着いてきた。

(どちらともいえない)

■児童発達支援・放課後等デイサービス

身近に話ができる子どもや若者がいないため、悩みや困りごとがわからない。

家にいる時間が増え、コミュニティ不足や社会や集団経験の少なさを感じます。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

お弁当の配布で滞在時間が短く十分なコミュニケーションが取れていないため、個々の状況は見えていない。

②子育て家庭の悩みや困りごと

(増えた)

■児童養護施設

養育に関しては、職員には定期的に研修を受講してもらっているが、発達障害、愛着障害など深刻化する課題についての知識、対応スキルの向上は一朝一夕では身につかない。SNS 等時代の進化に伴う新しいものへの理解は常にアップデートする必要あり。

■ファミリーホーム

子どもへの理解が増えれば増えるほど、新たな課題がみえてくるため終わりが無い。思春期からの委託はとても難しいものがある。

若い親たちの養育能力が育っていないように思える。

■放課後等デイサービス

強度行動障害のご家庭による理解不足によって判定が異なってきてしまっている。受給者証の再発行が多い。

父親が子育てに非協力的なパターンは以前と変わらずである。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

児童が自宅で問題を起こしたときの親の対応がわからない。

スマホやタブレット、ゲーム等の時間が増えていると聞く。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・教育にかかる費用の負担
- ・不登校など学校での悩み

ひとり親世帯が増え、悩みごとや困りごとが増えたのを感じる。

物価高騰（ひとり親家庭）

（減った）

■放課後等デイサービス

子育ての悩みを相談できる場所が増えたように感じ、それにより悩みや困りごとは減っているのではないかな？と思います。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

母も性格が穏やかな人が残っており、強い人はお子さんと一緒に卒業していった。

③子育ての負担感

（増えた）

■児童養護施設

施設としては財政的負担増、人材不足。

■ファミリーホーム

委託児童が増えればその分負担は多くなる。しかし、子ども達がより良い生活を送るため、子どもが望むもの、必要な物、事を与えてあげることが大事だと思っているので頑張っている。

経済的な負担が増えているように感じる。

■放課後等デイサービス

不登校に対し学校も及び腰で、学校に行かなくてもよいようにリモートをつなぐが、親と子が離れられず負担が増加している。

以前と変わらず母親主導の子育てが主流で、お母さんが仕事をもっていることが以前より増加した分、余裕のなさが伝わってくる。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

スマホやネットでの情報にあふれ、どの情報が正しいか悩む人もいる。発達障害児はこだわりや特性もあるので、周囲へ気をつかう保護者が多い。負担に感じている方も多い。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

家族の支援が受けられない環境での子育ての負担。

経済的な負担、コミュニケーション不足等による情報量の不足等により負担感は増してきていると感じる。

物価高騰（ひとり親家庭）

(変わらない)

■放課後等デイサービス

子育ての負担感は個人によって感じ方が違い、個人の負担感は大きく変わっていないように感じる。

個々で育てている家庭が増えたため、困ったときに頼りにくい環境。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

行政のフォローもしっかりしているので問題ないと思う。

(減った)

■児童発達支援・放課後等デイサービス

子育てはお金がかかるイメージがありますが、保育料が完全無償になったり、子育て支援金が支給されることで負担は減っていると思います。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

行政の働きかけもあって、以前よりは子育て環境がよくなっているように思われます。特に保育園や学童など働く女性には必要な施設が充実していると思います。

④こどもや子育て家庭に対する理解

(増えた)

■児童養護施設

地域の方々の一定の理解はあるものの、社会的養護の下にある児童への理解や協力はまだ充分とはいえない。

■ファミリーホーム

毎月のホーム運営会議を通して、情報共有や報連相をしているため自然と理解していく。

■放課後等デイサービス

障害のチェック（強度行動障害）が理解不足からか、受給者証の再発行が多い。

放課後デイサービスや児童発達支援が、この5年で増えたことは理解という面につながっていると思う。

障害のある方に触れる機会が少ないため、単に怖がったり敬遠する人が増えた印象がある。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

様々な支援団体が増え、家族や友人以外の相談場所が増えていると感じます。

(変わらない)

■ファミリーホーム

社会が子どもを育てていくという環境が整えられていってほしいと思う。

■放課後等デイサービス

子どもや子育て家庭に対する理解も大きく変化があったことは感じられない。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

SNS を利用した親対象の研修など充実していると思う。

周りがどれだけ子育て家庭に理解があるかはわかりませんが、まだまだ子育て家庭への理解は変わっていないのかなと思います。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

子育て家庭に対する理解は以前と変わらず、親族以外の協力や理解は得られにくいのかなと思われま

す。
変わっていないように感じる。（ひとり親家庭）

（減った）

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

少子化により身近に子育て家庭が少なくなり、具体的に理解できる状況が少なくなっている。

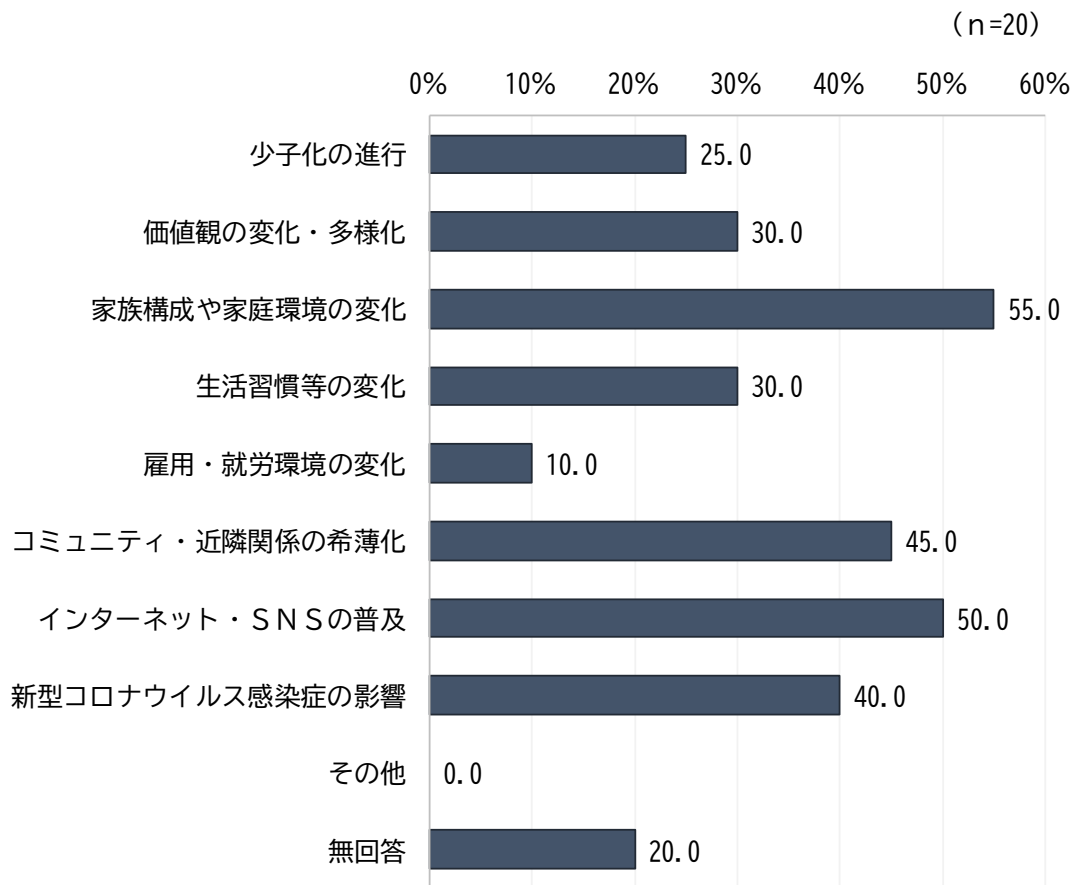
（どちらともいえない）

■児童発達支援・放課後等デイサービス

昔より子の看病で仕事を休みやすくなっているのではないかな？

問3-2 問3のような変化には、どのような背景や要因があると思いますか。①から④について、それぞれ該当するものに✓を付け、具体的な内容を記載してください。
(複数回答可)

①こども・若者の悩みや困りごとの変化の背景・要因



(具体的には)

■児童養護施設

社会全体が次世代を担う子どもへの投資が重要という認識が充分ではない。

■ファミリーホーム

親元を離れての生活に加えて、今までの自由な生活との違いからくるのでは。

将来に対する不安感をもつ児童が増えているように思える。

■児童発達支援

- ・若者や若い親は特に「7. インターネット・SNSの普及」が大きく影響していると思われる。
- ・ネットで調べて子どもがそうではないかとか、当てはまることが多いとかの言葉をよく耳にする。

■放課後等デイサービス

リモートによる支援の影響か？また、支援級を卒業した若者で、SNS によるいじめで精神的に不安定になる方も過去にいた。

最近は近隣関係が希薄になり、“個”や各家庭の考え方が主になりつつあるため。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

児童のインターネット、SNS の依存が多くなってきている。

SNS の普及によって、良い影響も悪い影響もあるのではないかと思います。コロナ禍でいろんな学校生活行事がなくなってしまった学生達は悩みがありそうかな？という感じです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅待機で外出や外遊びが減り運動量が減少。コロナでの外出禁止で人とのコミュニケーションが希薄化で家族以外と接する機会の減少。マスク着用で人の表情がわかりづらかったり、口元が見えず口型模倣が難しかった。スマホや動画を見てる時間が増え、人との言葉のやりとりが減少している。タブレットを使用し、字を書く機会の減少。

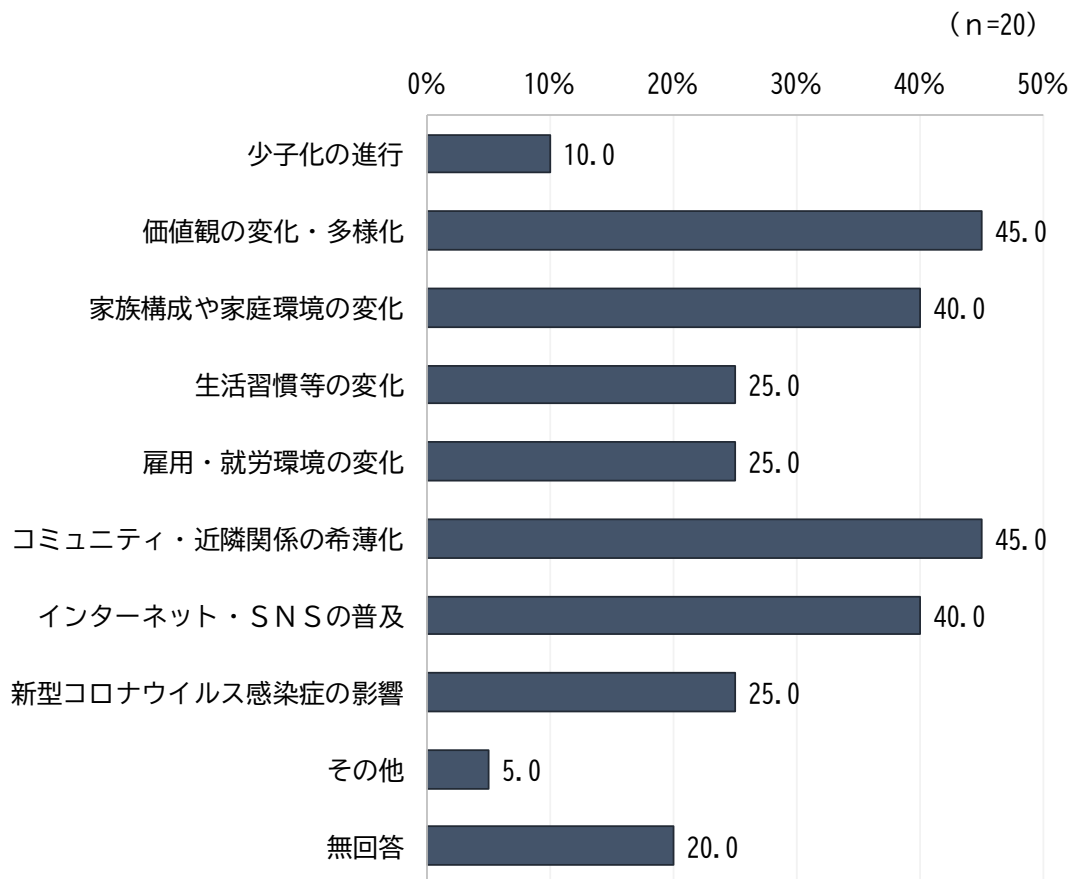
■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

具体的にはみえていないが、コロナ禍による人を結び付きの弱体化、SNS の普及による弊害等が考えられる。相談しやすい人間関係が築きにくくなっているのでは。

以前と違って子ども同士の関係も希薄になっているように思える。両親共働き世帯が増えたせいで、家族間でも時間の共有が減り、日々忙しく過ぎていることにより子どもへの関わりが減っているのではないと思う。

環境の変化による深刻な悩みがあった。（ひとり親家庭）

②子育て家庭の悩みや困りごとの変化の背景・要因



(具体的には)

■児童養護施設

情報入手のしやすさはプラスである反面、自分の好む情報のみに偏りがち。家族の子育て機能の弱体化は、核家族化の進行、経済格差の拡大など、社会的要因によるところが大きい。

■ファミリーホーム

①に加えて、子ども自身がもっている障がいや特性が多岐にわたり、専門性が必要になる。

児童に対して社会や家庭でどう生きていくべきかと指針を示すことが難しくなっている。

■児童発達支援

- ・若者や若い親は特に「7. インターネット・SNSの普及」が大きく影響していると思われる。
- ・ネットで調べて子どもがそうではないかとか、当てはまることが多いとかの言葉をよく耳にする。

■放課後等デイサービス

他人と相談してという場が少ないからか？家族によって支援に対しての優先順位が異なっている。共働きが増え、送迎希望者が多い。

- ・お子さんがゲームばかりしている。
- ・生活リズムが不規則になった。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

私自身家庭を持っていて、SNS があることで同じく家庭を持っている友達と悩みを相談し合えるので悩みが減りました。また、価値観も変化してきていて、女の人も働きやすい社会になってきていると感じます。

ユーチューブ等で自分の興味のある動画を家で見れる。便利になったが長時間使用しがちになっている。

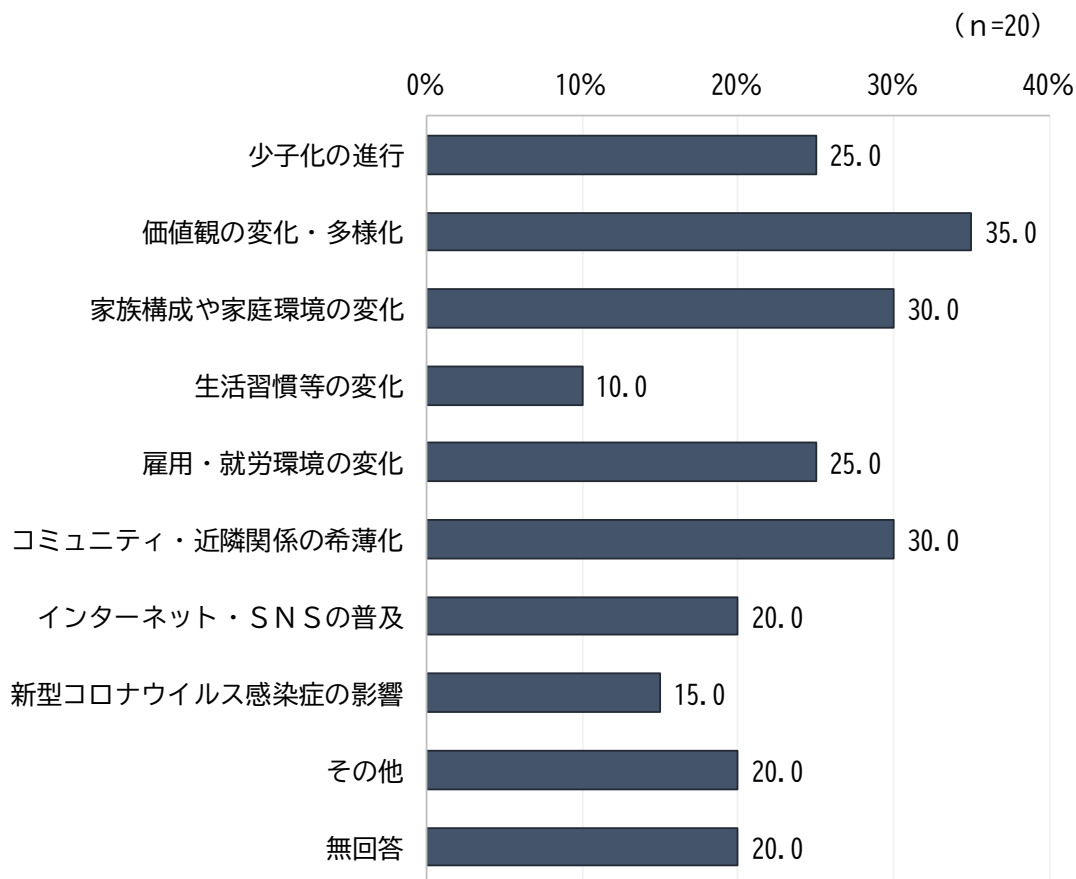
■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

共働きやひとり親世帯の増加による保護者の多忙化、子育てにかかる時間の減少等により親子間の関係の希薄化。子育てに必要な経済的な問題。地域からの独立。

上記と重複になりますが、両親が忙しいこともあり子ども同士の関わり、家族との関わり、いずれも減っているように思われます。

シフト減少により、収入の減少。（ひとり親家庭）

③子育ての負担感の変化の背景・要因



(具体的には)

■児童養護施設

行政からの措置単価の引き上げが物価上昇スピードに追いついていない。保育人財確保のための市からの支援がない。(他市では実施しているところあり)

■ファミリーホーム

直接的に目で見ることのできないネット上の問題が子どもと切りづらい。また、まだまだコロナ等への感染リスクが高い。

子育て家庭の収入が増えず生活にゆとりが感じられない。

■児童発達支援

- ・「1. 少子化の進行」「2. 価値観の変化・多様化」…少子化によって世間の寛容性が低くなってきている傾向に感じる。
- ・また、そのことを必要以上にインターネット・SNSからの情報で耳目に入れてしまう現状にある。

■放課後等デイサービス

不登校児に対し、学校も親へプレッシャーになるからといってリモートを促し、ますます学校に行かなくてよい環境になり、母子分離ができなく24時間一緒にいるため負担が凄い様子だった。

- ・お子さんを預けられる所が少ない。
 - ・生活リズムをどう直していけばよいかわからない。
- など

■児童発達支援・放課後等デイサービス

少子化、少子化といわれていて、それに対しての対策がなされていて、価値観も変わってきていると思います。価値観が変化すると子育ても負担ではなくなってきていると思います。

近くに祖父母がいなく、子の面倒を保護者が見ている人が多く、保護者の負担が多い。

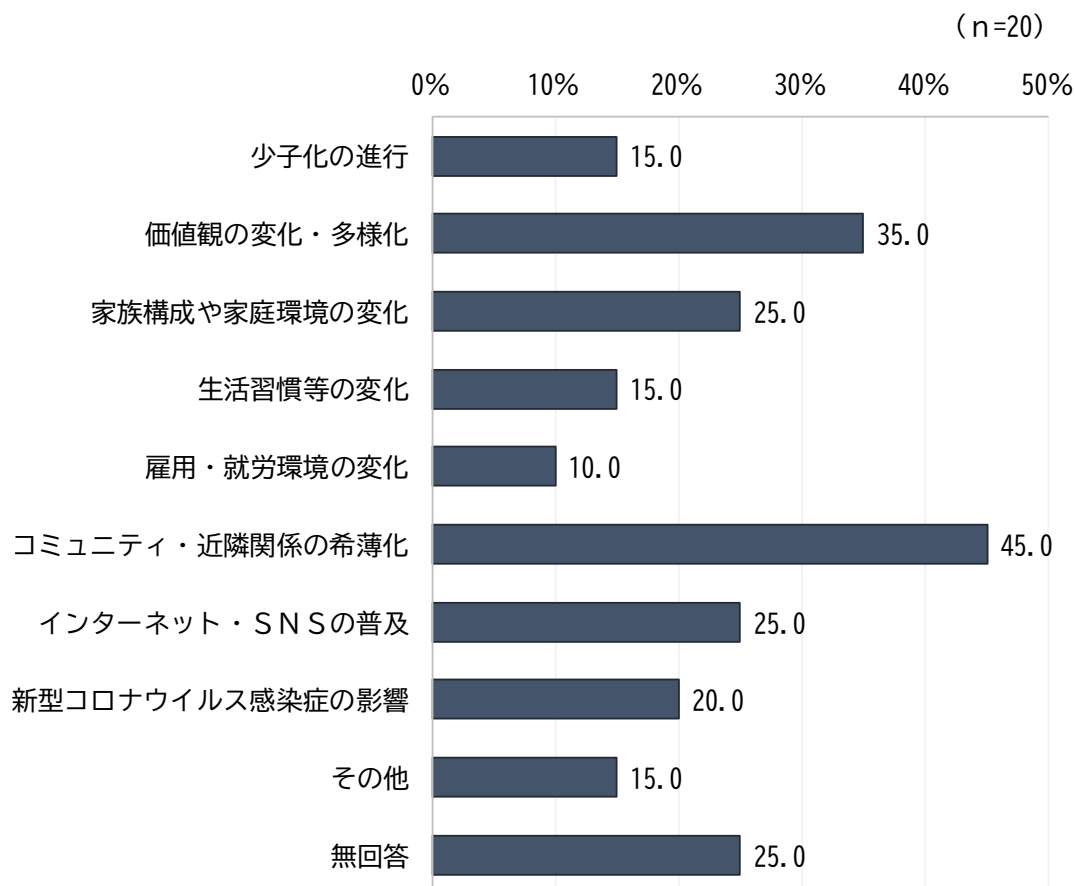
■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・家族行為や家庭環境の変化により、また就労の高齢化により祖父母に頼っての子育てが難しくなっている。孤立化している保護者も多くなり、相談できる環境が少なくなっている。
- ・経済的な理由で働く母親の増加、父親の子育て参加がまだ少ないのでは。
- ・保育園の預かり時間や病児保育等、就労を厳しくしている状況もある。

子どもが少ない世帯が増えているため、その分親の負担は減っているようです。共働きが多い中、保育園、学童保育など充実した環境で子育てできるようになってきたと思う。

物価高騰により生活が厳しい。（ひとり親家庭）

④子どもや子育て家庭に対する理解の変化の背景・要因



(具体的には)

■ファミリーホーム

子どもは地域や社会で育てるといような思いが感じられなくなっているため、各家庭への理解度がな
いに等しい。そのため問題も発見しづらく深刻化しやすい。

子どもが育つ環境が悪化している。家庭だけに養育を求めるのではなく、子どもを社会の宝として育て
ていく社会になってほしい。

■児童発達支援

- ・「1. 少子化の進行」「2. 価値観の変化・多様化」…少子化によって世間の寛容性が低くなってきてい
る傾向に感じる。
- ・また、そのことを必要以上にインターネット・SNS からの情報で耳目に入れてしまう現状にある。

■放課後等デイサービス

コロナで集まる機会が減り、コミュニティが希薄化したからか、親同士での悩みの相談ができていない
様子。職員に相談する方が増えたように感じる。

一人っ子の家庭も多いので、親の子に対する想いが変わってきたように思う。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

近隣関係の希薄化で子育てに対して周りに理解してもらえなかったら、きついと思います。

男性の育休制度の普及やリモートワークが可能になっている。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・子育て家庭の減少、地域住民の交流の減少等により、子育てが見えにくくなってきている。「地域で子どもを育てる」という考えが薄くなってきている。
- ・具体的に子どもにかかわる機会も少なくなり理解に乏しい。

雇用、就労環境も子育て世帯に合った内容での採用が多くみられるようになったと思う。

社会で支える雰囲気がない。（ひとり親家庭）

問4 貴団体・施設では、普段の活動において、以下の機関・団体等と連携していますか。①～⑧のそれぞれ該当するものに✓を付けてください。

(%)

	よく連携している	たまに連携している	ない	無回答
①地域子育て支援センター	20.0	15.0	40.0	25.0
②こども家庭センター(市役所こども青少年課、保健センター)	15.0	35.0	25.0	25.0
③保育園・幼稚園・学校	55.0	25.0	10.0	10.0
④地域の子育て支援団体	10.0	15.0	45.0	30.0
⑤自治会、民生・児童委員等	10.0	20.0	40.0	30.0
⑥民間企業・事業所	25.0	45.0	15.0	15.0
⑦行政(市・県等)	20.0	45.0	5.0	30.0
⑧その他()	25.0	10.0	0.0	65.0

(その他)

児童相談所(2)
医療コーディネーター
社会福祉協議会
埼玉県こども食堂ネットワーク

問 4-1 問 4 で回答いただいた機関・団体とどのような連携をしていますか。

■児童養護施設

要体協、対処に向けての就労準備、就学期間中の学習支援、地域での見守り。

■自立援助ホーム

行政：児相、転出入（支援措置で警察、男女共同参画）、ハローワーク、生活費、免許費用の貸付で県社協、生保申請、保健センター（HPV）、障害者相談支援センター、リハセン（手続申請）、サポステ。病院：精神科、心理カウンセリング、心理検査、入院、訪問看護、婦人科（HPV ワクチン、通院）。学校：創学舎高校、ぱるスタ、家庭教師。民間：ひろば三愛、利用者の就労先、コンパスナビ、グループホーム、作業所。

■ファミリーホーム

- ③子どもの情報共有をして、支援の統一性を高めている。
- ⑤自治会の活動に参加して、施設と子どもの存在をアピールしている。
- ⑧定期的に情報共有している。

社会的自立が図れるように成長の節目ごとに協議し、支援方法を具体的に考えていく。

入所児童の今後や現状の報告。

■児童発達支援

- 「⑥民間企業・事業所」…他児発事業所、放課後デイ、イースト、相談事業所
- 「⑦行政」…支援学校、教育研究所

■放課後等デイサービス

放課後等デイサービスのため、併用先や学校での連携をよくしている。統一した支援を行うために、間に入る相談支援事業所ともよく連絡をとっている。

- ・ 深谷市障害福祉課
- ・ 深谷市基幹支援センターうらら
- ・ 深谷市放デイ連絡会
- ・ 深谷市、本庄市、熊谷市内放デイ事務所
- ・ 深谷市、本庄市、熊谷市内相談事業所
- ・ 熊谷特別支援学校

市役所、教育相談所、お子さんの通う学校、支援員、相談員。

- ・ 学校迎え時に先生とお子さんの学校での行動について聞き取り相談。
- ・ 保育所等、訪問支援。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

障害者支援センター

- ・ 保育園との併用可能、お迎え時に情報を共有。
- ・ 市役所との連携、相談。
- ・ 他事業所との連携、相談。

「①地域子育て支援センター」「②こども家庭センター」「③保育園・幼稚園・学校」へは発達の気になる子への早期支援の周知活動と支援する事業所を、困っている保護者に知ってもらえるように活動し

ています。

「③保育園・幼稚園・学校」利用児の園や学校の生徒と必要に応じて連携している。

「⑦行政」研修等に参加している。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

・子ども食堂の性格上、校区（花園地区）の小中学校とは情報交換し、協力いただいている。

・深谷市内の子ども食堂、フードパントリーの団体とは「子どもの居場所ネットワーク」を組織し連携、協力している。

・民間企業・事務所からはたくさんの食材等の支援をいただき、子どもたちの体験の機会もいただいている。

・行政「埼玉県こどもの居場所づくり推進事業」により情報を。

・社協からは情報提供、支援物（金）のとりまとめ、支援をいただいている。

社会福祉協議会とほとんどすべての事でお世話になっています。

深谷市社会福祉協議会、埼玉県こども食堂ネットワークともに食糧支援やその他情報など、メールや電話で連絡がとれています。

社協、自治会、地域団体、県とは連携しているが、市とはほとんどかわりがない。フードパントリーに理解がないのかかわりがもてない。

問 4-2 今後、どのような機関・団体とどのような連携をしたいと考えていますか。

■児童養護施設

児童館のような日常的に子ども達が利用できる施設があれば、子ども達のニーズにもマッチする。

■自立援助ホーム

- ・退寮した利用者の相談・見守り役として、民生委員さんの協力を得たい。
- ・市役所内に単身世帯の若者の総合相談窓口を設けてほしい。自立援助ホームのアフターケアは、累積的に退寮者が増えていくので対応しきれない。

■ファミリーホーム

「地域子育て支援センター」「こども家庭センター」「行政」…サービスや相談など利用できる様々な社会資源を教えてほしい。

「地域の子育て支援団体」「民間企業・事業所」…スポーツ観戦や参加、イベントへの招待など、たくさんの経験や体験ができるようにつなげてほしい。

里親支援センター、生活支援センター。

■児童発達支援

すぐには思い当たりません。

■放課後等デイサービス

地域の自治会など。

今後も上記機関、団体と連携をとっていきたい。

生活リズムを整えたいという相談が多いので、そういった目的をもって達成できる期間や団体などと連携していければと思います。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

市との連携を強め、重症心身障害児通所施設の必要性、特性、重要性を広められるよう連携を行いたい。

発達に困っている親子への早期支援。保健センターや園との連携。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・深谷市の子どもの居場所推進事業の一環として、子ども食堂の食事提供、学習支援（行っている所、いない所あり）、遊び支援に対してご理解、ご支援をお願いしたい。
- ・私達も子ども・子育て支援の一翼を担っているとの自負があります。

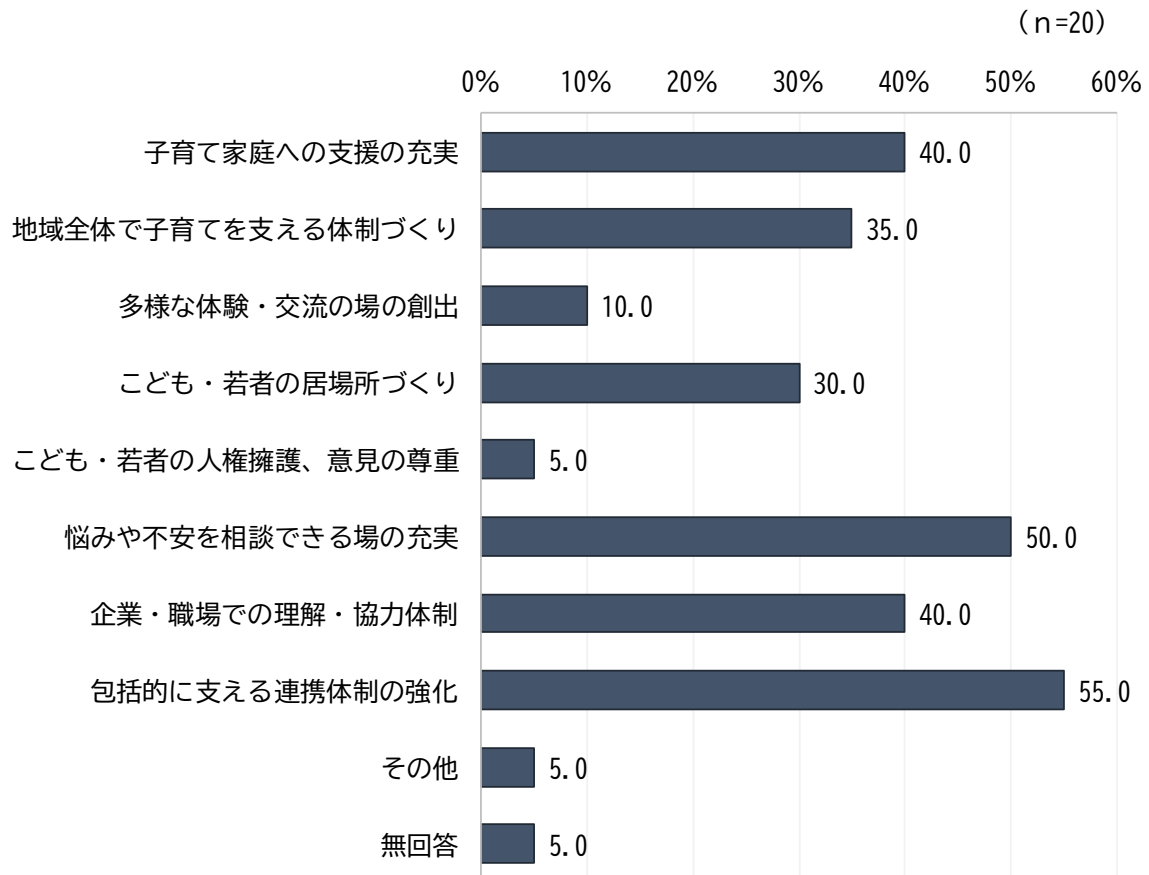
地域の子育て支援団体、自治会 etc. と情報交換や交流を密にもちたい。

保育園や学童施設などで、ひとり親家庭や生活困窮家庭などにこども食堂の利用を促していただきたい。

食材を影響していただける企業や団体と連携できたらいいと思っています。

ひとり親家庭の支援を中心に地域全体で支えたい。地元企業とのつながりをつくりたい。

問5 こども・若者や子育て家庭を支援していくために、市は、どのような取組に力をいれていくべきだと思いますか。特に重要なもの3つまでに✓を付け、それぞれについて具体的にご記入ください。



1 子育て家庭への支援の充実

■児童養護施設

深谷市は公民館は多く設置されているが、児童館はないのが現状。人口流入、特に子育て世帯を引き付けられるような制度、施策への投資が期待される。

■ファミリーホーム

子どもを育て、生活する上で必要なものは「お金」だと思う。将来に不安をもつことなく安心して子育てできるために、単発ではなく継続的な支給や減税などがあると良いと考える。

子育て家庭への経済的支援。

■児童発達支援

(特に障害児のある世帯に関して)

- ・ 障害児（医ケアの有無問わず）世帯が、使用できる一時預かりやレスパイト施設の充実。
- ・ 保育園、幼稚園、小学生等の人員増加。
- ・ 保育、教育、療育への予算増加。

■放課後等デイサービス

お子さんを預ける場所（緊急的に）などの体制を地域でも確保できればよいのかなと思います。

児童発達支援、放課後等デイサービスの利用について必要な方に情報が行き届いていない。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

現状の支援を継続してほしい。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

子育て家庭への支援、特に経済的支援が必要と感じます。（対象は絞るべき）

一般の家庭は特に必要ないと思いますが、ひとり親家庭にはフードパントリーや子ども食堂をととして支援できたらいいと思います。

2. 地域全体で子育てを支える体制づくり

■児童発達支援・放課後等デイサービス

必要な支援の施設がわかりやすく、利用しやすい体制。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・地域内の行事の復活や近隣住民の結びつきを図る事業（地域の運動会や子どもを交えた行事等）の活性化。
- ・通学路の見守り事業への支援。（講習会の開催や登録）

昔のように、隣の子もうちの子というように地域全体で子どもを育てていくような体制を行政がつくりあげてほしい。

地域との交流が少なくなっているのを、自治会や子供会などで子ども同士や保護者同士の交流の場を増やせるといいと思います。

3 多様な体験・交流の場の創出

■放課後等デイサービス

今は安全性や親の過保護から、何かをしたくてもできないという環境の中、お子さんのチャレンジしようという気持ちも見られなくなっているのを、安全にチャレンジしたり、体験できる場を作っていただければと思います。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

子どもだけでも、親子でも体験できる何かがあると休みの日などは楽しいと思います。子どもの楽しむ時間が増えるのと親子での時間も楽しい思い出になると思います。

4 こども・若者の居場所づくり

■放課後等デイサービス

児童館など、子ども、若者が集まれる場所。フリースクールのような不登校児でも利用できる場の提供。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

子ども・若者が気軽に集まれて、楽しめる場所があれば子ども達同士で交流ができ、悩みや困りごとが減るのではないかなと思います。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

居場所づくりにかかわる団体はあるが（子ども食堂・フードパントリー）市との連携がとれていない。積極的に向き合ってほしい。

- ・子ども食堂や若者のサロン活動に関わっているボランティア団体への支援、助成を手厚くする。
- ・公民館や図書館などの公共建物内に自由に使い交流できるスペースの設置。

気軽にいつでも行きたいときに安全に過ごせる居場所を1小学校区に2～3か所つくってほしい。

5 こども・若者の人権擁護、意見の尊重

■児童養護施設

子どもの権利擁護の推進は、大人、地域社会が保護をするだけでなく、子ども達自身が意見表明を行使するなど、子どものエンパワメントの側面も重要である。他府県では市町村レベルの子どもの権利条例策定をしているところも多くあり、深谷市でも子どもの参画を中心に据えて、この条例策定が検討されることを期待する。

6 悩みや不安を相談できる場の充実

■自立援助ホーム

児童相談所は敷居が高い。学校、家庭に相談できないことを相談できる窓口が市役所にあるといい。家庭児童相談員の子ども版のような場所。（必ず守秘義務で）

■放課後等デイサービス

母親が一人で悩んでいることが多く見受けられる。こちらが声をかければ相談に来るが窓口は多いほうがよい。

相談支援事業所。相談員の不足。

児童発達支援センターの設置をして、不安や悩みなどを相談できる場所を作ってほしい。

相談できる場所（気軽に）が少ないという意見を保護者さん達が言っていたので。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

家族以外に相談できる場が身近に増えるとよい。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

悩みや不安を相談できる専門家が必要。だれでも利用できるとよいです。

ひとり親家庭や生活困窮家庭が相談しやすい場所、子育て世帯の家庭が気軽に相談できる場所があればいいと思う。

7 企業・職場での理解・協力体制

■自立援助ホーム

自立援助ホームの利用者や施設の入所児を積極的に雇用してくれる企業が増えるといい。

■ファミリーホーム

ライフバランスがとりやすいように働き方を整える必要がある。そのためには企業の努力は必要不可欠である。家族と過ごしたり、休日を楽しめたり、金銭的な余裕がうまれるような取り組みを期待します。

■児童発達支援

父の育児時間を確保するための企業・職場の理解、体制が必要。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

他方面での補助金等の支援をしてほしい。

私のところは違いますが、まだまだ子育て家庭に対する理解が乏しい企業があったり人があるので、その辺をもっと理解するように協力するようにと伝えていってほしいです。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

特にひとり親家庭については、仕事と家庭の両立ができるよう配慮、支援が必要。

職場での理解は大変重要と感じます。そのための支援、指導を深谷市がリーダーシップをとってやっていただけるとありがたいです。

- ・ 父親の子育て参加を促す取り組みの強化支援。
- ・ 子どもの生活に合わせた(子ども真ん中)勤務体制の支援。

8 包括的に支える連携体制の強化

■児童養護施設

深谷市は毎月定期的に要体協を開催しており、高く評価される。児童福祉法改正に伴い、子ども家庭センターをいち早く設置したことも積極的な行政の表れである。子ども家庭センターは単なる保健部局と福祉部局の統合にとどまらず、アウトリーチ、ケースマネジメントを積極的に行うことで、地域で子育てを支援する体制づくりができることが期待される。

■放課後等デイサービス

障害児相談支援が不足しているので、学校や事業所間の連携がなかなかできない。放デイが中心となるのは可能だが、業務に忙殺されて指揮がとれない状況。

児童発達支援センターの設置をして、不安や悩みなどを相談できる場所を作してほしい。

保育所等訪問支援の周知→園、学校の先生が知らないことがほとんど。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

幼児期から児童期、青年期から成年まで切れ目ない支援。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

縦割りではなく、各部署が横の連携をとり全体で子育て支援してほしい。

市には NPO 等と協力して包括的連携の中心になってほしい。

9 その他

■ファミリーホーム

上記のような取り組みをするには行政の支援が必ず必要です。

問6 貴団体・施設では、今後、どのような取組に力を入れていきたいと思いますか。

■自立援助ホーム

- ・家庭には戻れないが、自分の人生を大切に生きていきたいと考えている若者にチャンスを与え、退寮後も人生を見届けていけるような信頼関係を築けるような支援をしていきたい。
- ・職員一人一人の専門性を上げていき、支援が難しい利用者でもじっくりかかわっていく自立支援を実践したい。

■ファミリーホーム

- ・子どもが安心安全な生活が送れるようにする。
- ・子どもが「家族」と感じられるようにする。
- ・たくさんの経験や体験ができ、大きく成長できるようにする。

今までの事業を継続していきたい。

入所児童に対する支援の充実。

■放課後等デイサービス

人員配置が整えば R7. 4. 1～日中一時支援事業を開始し、高校卒業後の支援を行いたい考え。

コロナが落ち着いてきたので、保護者会などを定期的に行い、同じ悩みをもつ保護者同士の橋渡しができればと思っています。

園や学校での教育との連携。支援が必要なお子さん、保護者への支援。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

保護者への理解をさらに深め、信頼関係を築いていきたいと思います。今以上に子どもが安心して楽しめる場所にしていきたいです。

発達に不安や困りごとの早期支援。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・学習の支援

すべての子ども達が、学校の学び以外にも色々なことを学べる場所をつくれたらと思います。

現在はお弁当や食材の配布に重点が置かれているが、利用者とのコミュニケーションを大事にしていきたい。結果として子ども・保護者の居場所、交流の場所となるように力を入れていきたい。

現在、利用してもらっている家庭とコミュニケーションを図り、必要としていることに寄り添えるようにしていきたい。

フードパントリーとしての支援の強化。困りごとの橋渡し。協力者がいれば学習支援など。

問 7 最後に、計画策定や市の取組等に対してご意見、ご提案があればご記入ください。

■自立援助ホーム

単身世帯の未成年には、本人にこども医療が適用されることを強く要望します。自援の利用者は扶養の有無は関係なくこども医療が使えないため、すべて自己負担しています。精神疾患のある子も多く、医療費の負担で生活費がなくなってしまうほど圧迫されています。

■ファミリーホーム

子育て世帯もですが、困っている人が安心して暮らしていける深谷市を目指してほしいです。よろしくお願いします。

物価高騰等に対する給付金などの援助。

■放課後等デイサービス

前にも書きましたが、安全な環境で安心して参加できるイベントなどの計画など立てていただいたり、不安な保護者さん達が緊急な場合でも頼れる場所づくりに取り組んでいただければと思っています。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

利用する方の上限額が 4,600 円から 37,200 円とかなり差があり、37,200 円の方の負担が多いと感じる。負担額の差がもう少し減るとよいと思います。3歳～6歳は無償化ありがたいと思う。必要な支援が身近にあり、安心して生活できる社会になってほしいです。

■ふかや子どもの居場所づくりネットワーク

- ・子育てしながら働きやすい深谷市
- ・子ども、保護者ともにくつろげる場所の創設、児童館一か所のみでなく各地域につくってほしい。子ども食堂もその一つでありたい。
- ・不登校児や障がい児へ行き届いた支援体制の確立。

ひとり親家庭支援団体としては、もう少し積極的に協力してほしい。市が全面に出られないとしたら関連団体のバックアップに力を入れてほしい。子ども達が深谷で育ってよかった、深谷で生活したいと思えるような優しい深谷市であってほしい。